

2000年度

講義計画

桃山学院大学

講 義 計 画

面 信 義 結

本 学 校 学 生 会

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学総論	01	前期集中	4単位	面 地 豊
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>私の経営学総論は、経営学という学問の内容と性格を知ることを学習目標とします。経営学の概観は、丁史の方法によります。</p> <p>日本の経営学と称せられている学問は、アメリカ経営学とドイツ経営学という二大潮流を合わせたものを含んでいます。講義は、この二大潮流の内容を食みながら、最後に、日本の経営にも言及する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>講義は次の順序にしたがっておこなう。</p> <p>I. 資本主義経済の隆盛と経営学の誕生</p> <p>II. アメリカ経営学の考え方</p> <p>III. ドイツ経営学の考え方</p> <p>IV. 経営社会の形成と発展</p> <p>V. 日本の経営学論</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験による。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義において、その都度指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>ノート講義を中心としますが、講義内容の一部については、面地豊『両大経営社会の発展』千倉書房を使用する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学総論	02 03	通 期 通 期	4単位 4単位	片 岡 信 之
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この講義は、皆さんが将来経営学の各論講義で詳しい話を聞く前に、経営学の全般について予め予備知識を持っていることがふさわしいという狙いから設けられています。</p> <p>したがって、本講義の目標もその点におかれることとなります。すなわち、経営学全体について、広く浅くサーベイするということです。しかも、出来るだけ、経営学という学問が面白いものだという感じを持って貰えるように、皆さんを動機づけ出来たらよいと思っています。</p> <p>経営学は範囲が広いので、時間的事情によってはすべてを網羅することにまで至らないかもしれませんが、出来るだけ多くのことをお話ししたいと思います。経営学の基礎知識をつけるのだという気持ちで臨んで下さい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>テキストに従って、概ねその順に講義を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業経営の歴史（アメリカ、日本） 2. 企業経営の構造（事業構造、企業構造、経営構造、対境構造） 3. 経営管理（管理の基本構造、生産管理、マーケティング、財務管理、労務管理、労使関係管理、インセンティブ・システム、リーダーシップ、情報システム） 4. 経営発展（経営環境と経営戦略、経営革新、企業文化、グローバル経営） 5. 日本的経営の行方 6. 経営学理論の発展史（アメリカ、日本） <p>適宜、プリントを印刷・配布します。プリント内容は、前年度のものと同じとは限りませんので、注意してください。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義ノートチェック（出席してしっかりノートを取っているかどうか）、講義中の小テスト、学年末テスト結果などによる総合評価とします。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>●特に指定はしませんが、ポータブルな経営学辞典を手元に置いておくことを奨めます。平日頃から隙間時間を利用して、どこからでも手当たり次第に読んで下さい。つぎの何れかが、手頃で良いでしょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 吉田和夫・大橋昭一編『基本経営学辞典』同文館 2. 二神恭一編『ビジネス・経営学辞典』中央経済社 <p>●経営学は様々な知識の総合という特徴があります。『現代用語の基礎知識』（自由国民社）『イミダス』（集英社）『智恵蔵』（朝日新聞社）のうちいずれかを手元に置いて、手当たり次第に読んで雑学をしてみてください。（3つとも各年版が出ています）。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>片岡信之編著『要説 経営学』文真堂、1994初版、1997三刷</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学総論	04	通 期	4 単位	谷 口 照 三
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営学は、主として企業の構造と行動を歴史社会的環境の下で研究する。従って、経営学は時代と共にあり、常に「現代経営学」として問題にされる。そこにおいては、「現代の諸問題」に関する一定の理解が必要とされる。経営学を取り巻く「現代の諸問題」の中でとりわけ重要なものは、「環境問題」、「情報化」、「グローバル化」であろう。</p> <p>本講義では、このような問題が企業の経営にどのような変化を迫り、どのような意味を持っているかに留意しながら、以下のテーマについて講義する。1. 経営学の歴史と研究動向、2. 経営学の基本的枠組とその概要、3. 組織と管理、4. 部門別管理と統合管理（トップ・マネジメント）、5. 「環境と経営」に関する現実的諸問題、6. 企業、非営利組織・非政府組織（NOP・NGO）、政治・行政のネットワークと新しい経営学の可能性、7. 現代経営学の課題と将来への展望</p> <p>学生諸君には、各テーマの要点を理解すると共に、「現代の諸課題」と「企業の経営」が密接に関連していることに留意し、「現代経営学の課題」を明確に意識されることを望む。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期> 1. 経営学の歴史と研究動向（テキスト1～3章、24～26章） 2. 経営学の基本的枠組とその概要（テキスト4章～8章） 3. 組織と管理（テキスト7章、9章、14章、16章）</p> <p><後期> 4. 部門別管理と統合管理（トップ・マネジメント）（テキスト10章～13章、15章、17章、6章、9章） 5. 「環境と経営」に関する現実的諸問題（テキスト8章、19章～23章） 6. 企業、非営利組織・非政府組織、政治・行政のネットワークと新しい経営学の可能性 7. 現代経営学の課題と将来への展望</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>不定期小テスト、レポートおよび学年末試験の総合評価。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて適宜指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>片岡信之編著『要説 経営学』文真堂、1994年。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学総論	05	通 期	4 単位	野 田 俊 範
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義は、経営学を初めて学ぶ学生を主たる対象とする、いわば「経営学入門」である。と同時に、本学経営学部における企業・経営コースへの導入科目としての性格をも併せもっている。したがって、本講義では経営学の学問的性格を明らかにするとともに、その経営学が研究対象とする企業・経営の基本的原理を概説することとしたい。</p> <p>本講義は、以下のような学習目標をもっておこなわれる。</p> <p>①経営学の全体像を体系的に把握すること。 ②企業・経営の基本的原理を理解すること。 ③現代社会において企業がもつ意義や課題について、各自が主体的に関心をもつこと。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>I. 経営学とは何か 1. 経営学の意義 2. 経営学の成立 3. 社会科学としての経営学</p> <p>II. 企業とは何か 1. 企業の基本的特質 2. 企業の基本的形態 3. 株式会社の特質 4. 企業を支配するもの</p> <p>III. 経営管理の基本問題 1. 経営管理の意義 2. 経営管理思想の成立 3. 経営組織の論理 4. 経営戦略の論理</p> <p>IV. 現代社会と企業経営 1. 現代社会における企業の意義と課題 2. 経営学の展望</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期末および学年末の試験によって評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>橘博・大橋昭一編著『経営学へのアプローチ』ミネルヴァ書房。 中村瑞穂・丸山恵也・権泰吉編著『新版 現代の企業経営—理論と実態』ミネルヴァ書房。 大橋昭一『経営学理論』中央経済社。 万仲脩一・海道ノブチカ編著『利害関係の経営学』税務経理協会。 その他、必要に応じて適宜指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。</p>				

科 目 名	ク ラ ス	講義区分	単位数	担 当 者
情報システム概論 (旧情報処理概論)	02	通 期	4 単位	明 石 吉 三 井 上 義 祐 井 上 義 祐 明 石 吉 三 佐々木 宏 牧 野 丹奈子 牧 野 丹奈子
	03	通 期	4 単位	
	04	通 期	4 単位	
	05	通 期	4 単位	
	06	通 期	4 単位	
	07	通 期	4 単位	
	08	通 期	4 単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>私たちは、コンピュータと通信の利用なしでは過ごせない情報化社会のなかに生きている。この講義では、急速に進展する情報化社会で活躍するために、常識として必要な情報システムの基礎知識を習得する。ハードウェア、ソフトウェア、ソフトウェア開発手法、データベース、通信技術についてその基本を学ぶことを目標とする。</p>	<p>【前期】 オリエンテーション コンピュータの歴史・情報表現 ハードウェア構成 コンピュータの処理方式・信頼性</p> <p>【後期】 ソフトウェア ソフトウェア開発 ファイルとデータベース 通信ネットワーク 情報化社会の光と陰</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
前期試験と後期試験の成績に加え、平常点を総合評価する。	適宜指示する。			
[教科書]				
井上義祐・小池俊隆編『経営情報処理概論』同文館				

科 目 名	ク ラ ス	講義区分	単位数	担 当 者
簿記 I	01	通 期	4 単位	河野 勉
	02	通 期	4 単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>簿記とは帳簿記入のことをさすが、単にそれのみにとどまらず、個人・法人とも1年間の経営活動の結果として決算書（貸借対照表、損益計算書）を作成しなければならない（商法第32条、商法第281条）。その決算書は、利害関係者（経営者、従業員、債権者、株主、国等）が活用する有用な情報である。今日、この種のディスクロージャー（情報公開）が社会的に必要とされている。決算書は、複式簿記という極めて技術的手法によって誘導される。この原理を学ぶことによって、企業活動の計数的結果である利益の算定方法並びにバランス思考（人生における）を養うことを学習目標とする。</p> <p>更に企業経営にとって、会計の知識は必要不可欠なものであるとされるが、簿記を学習することにより、その会計の考え方をより理解することが容易となる。実務との係わりを交えながら講義していく。</p>	<p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 複式簿記の原理…(1)簿記の意義と目的 (2)簿記の要素（資産・負債・資本・費用・収益） (3)簿記の仕組み（取引・勘定・勘定記入法・貸借平均の原理・勘定科目） 仕訳帳と元帳… (1)仕訳と仕訳帳 (2)転記と元帳 試算表… (1)試算表の意味と種類 (2)試算表の貸借合計不一致 決算（その1）… (1)決算の意味と手続 (2)帳簿決算（英米式・大陸式） <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 取引の記帳…(1)現金・預金取引(2)商品売買取引（仕入帳・売上帳 商品有高帳・商品売買益の計算）(3)信用取引(4)手形取引（手形の種類・手形の裏書と割引・不渡手形）(5)有価証券取引(6)固定資産取引(7)個人企業の資本取引 決算（その2）…(1)決算整理の意味(2)棚卸表(3)棚卸減耗損と商品評価損(4)貸倒引当損と貸倒引当金(5)有価証券評価損(6)減価償却(7)費用・収益の繰延べと見越し(8)精算表 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
簿記は計算技術的側面が強いため、適宜計算問題のホームワークを課し、テストを2回実施し、総合的に評価する。尚、日本商工会議所の簿記検定3級に合格した場合は、成績評価に加算する。	<p>検定簿記講義 3級商業簿記 井上 達雄 新井 清光 編著 中央経済社</p> <p>検定簿記ワークブック 3級商業簿記 井上 達雄 新井 清光 編著 中央経済社</p>			
[教科書]				
中田信正・徐 竜 達・堀 友章・全 在紋（共著） 『現代簿記論』（中央経済社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
簿記 I	03	通 期	4 単位	清水 信匡
<p>[講義概要]</p> <p>初めて簿記・会計を学ぶ学生を対象として複式簿記に基づいた商業簿記の記帳手続きを説明することが本講義の主内容である。その過程で簿記・会計が現代の社会でどのような役割を担っているのかも説明する。さらに、会計学にはどのような領域があり、どのようなことが問題になっているのかも説明する。なお、随時記帳練習を行う。</p> <p>[学習目標]</p> <p>①複式簿記の基礎概念の理解 (資産・負債・資本・収益・費用・利益概念の理解)</p> <p>②複式簿記の基本的記帳方法の理解</p> <p>③複式簿記の理解を通じて会計学のイメージをつかむ</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期</p> <p>1 複式簿記の基礎概念 2 貸借対照表 3 損益計算書 4 仕訳 5 転記 6 試算表 7 6 桁精算表 8 決算 9 複式簿記の役立ち</p> <p>後期</p> <p>1 現金・預金 2 三分法 3 仕入帳・売上帳・商品有高帳 4 有価証券 5 貸倒償却 6 減価償却 7 手形 8 費用・収益の繰延の見越 9 8 桁精算表 10 決算 11 財務諸表の読み方</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期・後期の試験で評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>中田・徐・堀・全著『現代簿記論』中央経済社。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>新井清光監修『日商簿記検定 段階式ワークブック』税務経理協会</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
簿 記 I	04 05	通 期 通 期	4 単位 4 単位	チョン ジェ ムン 全 在 紋
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>〈講 義 概 要〉 リトルトンという会計学者は、「会計」を「企業の言語」とたとえた。日本人が日本語で話し、アメリカ人が英語で話すように、「企業人」は会計で話しをすると見たのである。この伝で言えば、「簿記」は企業の言語(会計)の「文法」だと言えよう。英語の文法が面白くないように、簿記の学習もまた、学生諸君にはとかく敬遠されがちである。しかし、将来企業人として指導的立場に立たねばならない経営学部卒業生には、簿記の習熟は避けて通れない場所といつてよい。</p> <p>〈学 習 目 標〉 複式簿記の計算原理・計算構造について理解する。 ① 財務諸表を構成する勘定諸科目の会計的意義を理解する。 ② 複式簿記システムでの会計的取引の記帳方法を習得する。 ③ 決算手続きを理解し、損益計算書・貸借対照表の作り方を学ぶ。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>① オリエンテーション (2回) ② 複式簿記の計算原理 (3回) ③ 複式簿記の計算構造 (4回) ④ 複式簿記の記帳練習 (3回) ⑤ 現金・当座預金の処理 (2回) ⑥ 売上・仕入の処理 (3回) ⑦ 繰越商品・売上原価の算定 (2回) ⑧ その他の勘定の処理 (1回) ⑨ 決算整理事項の処理 (3回) ⑩ 精算表・財務諸表の作成 (2回)</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業の出席状況、課題(宿題)の達成状況、および筆記試験(前期末試験・学年末試験各1回)の総合点で評価する。なお、日本商工会議所簿記検定試験3級以上の合格者には、別途加点評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>井上達雄・新井清光(共著)『検定簿記ワークブック(3級・商業簿記)』中央経済社</p>			
<p>[教科書]</p> <p>中田信正・徐 龍 達・堀 友章・全 在 紋(共著) 『現代簿記論』中央経済社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
簿記 I	06 07	通 期 通 期	4 単位 4 単位	パ ク テヨン 朴 大 栄
[講義概要・学習目標] 今日の経済社会の発展は、簿記の利用なくしては不可能であったと断言しても過言ではない。この意味で、簿記はたんに会計学のみならず、経営学、経済学、その他の基礎としても必要不可欠な学習科目の一つである。 簿記は決して難解な科目ではないが、これをマスターするためには、不断の記帳練習が必要である。したがって、本試験以外に毎回できるだけ数多くの練習問題をレポート提出という方法で行わせる予定である。 本講義は、個人商店の決算諸表の作成までをマスターさせることを目標としている。ただ、大学に学ぶ以上、その背後に流れる思考の理解も目標としたい。	[講義計画] 4月 複式簿記の意義と原理 4-7月 複式簿記の計算構造（取引の意義と種類、勘定と仕訳、仕訳帳と元帳、試算表、精算表、決算と財務諸表） 9-11月 個別会計処理（現金、当座預金、商品売買と売掛金・買掛金、受取手形と支払手形、商品、その他の勘定） 12-1月 決算			
[成績評価の方法] 前期・後期の筆記試験の成績にレポートの提出状況と出席状況を加味して評価する。	[参考文献] 必要があれば、適宜指示する。			
[教科書] 中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋共著 『現代簿記論』 中央経済社 新井清光・渡部裕亘編著 『新検定簿記ワークブック 3級』 中央経済社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
簿記 I	08	通 期	4 単位	山 本 浩 二
[講義概要・学習目標] 企業は、利益を獲得することを目的として、さまざまな活動を行っている。個人企業の場合には店主が出資し、株式会社の場合には株主が出資し、また銀行などから借り入れたりして経営活動に必要な資金を調達する。調達した資金によって経営活動に必要な物品を購入したり、商業の場合には販売するための商品を購入し、製造業の場合には原材料などを購入して製品を生産し、そして商品や製品の販売が行われる。このような主たる経営活動以外にも企業は多くの活動を行っている。簿記は、企業が営むさまざまな経済活動を貨幣金額で記録する重要なシステムであり、経営学や会計学を学ぶにあたっての必須の基礎知識である。簿記の目的は、企業の財政状態と経営成績を明らかにすることである。本講義では、商業を営む企業の簿記である商業簿記を前提にして、複式簿記の基本原理、日常の取引の記録から決算にいたる簿記の一連の手続きを説明する。 簿記は、資格としても役立ち、日本商工会議所主催の検定試験は年に3回行われている。検定試験合格に必要な知識を含めて、簿記と会計の基本知識を講義したい。	[講義計画] 前期 ①複式簿記の計算原理（損益法と財産法） ②複式簿記の計算構造 ③勘定と記帳 ④試算表、精算表 ⑤決算 後期 ①個別勘定科目の処理－現金、当座預金 ②個別勘定科目の処理－商品 ③個別勘定科目の処理－売掛金、買掛金 ④個別勘定科目の処理－手形、その他の勘定 ⑤決算手続きと決算整理事項			
[成績評価の方法] 前期・後期の各期末試験で評価する。日商検定3級以上の合格者は成績評価にあたって配慮する。	[参考文献] ニューコンセプト日商簿記検定試験商業簿記3級、税務経理協会 そのほか、必要に応じて指示する。			
[教科書] 中田信正、徐龍達、堀友章、全在紋共著『現代簿記論』中央経済社 ニューコンセプト日商簿記検定試験商業簿記ワークブック3級、税務経理協会				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習	01	通 期	4 単位	岡 崎 守 男
<p>[演習概要・学習目標] この基礎演習では経営学の基礎を習得してもらうことを目標としています。そのためにも皆さんには、書物を通しての勉強と併せて、社会の中の出来事をリアルに見つめ、考える習慣を身につけて欲しいと思います。 この演習でも、それぞれ興味を持ってそうな社会的な問題を取り上げて材料を集め、それを整理、加工して最終的にはレポートのまとめるような作業もやってもらうつもりです。また、それを教室で発表し、みんなで議論をするというのもどうでしょうか。そうしたことを通して自分の意見を他人に正確に伝え、同時に他人の意見を正確に理解する能力を高めていってください。</p>	<p>[演習計画] テキストを使ってゼミを進めますが、いつまでにどこまで進むかといった計画は設けません。こちらも話し中に脱線するし、また、皆さんのほうから質問で脱線させてくれてもかまいません。 なお、演習では、このほか例えばチャップリンの「モダンタイムズ」など経営学を多面的に理解することにつながるようなビデオなども鑑賞する予定です。</p>			
<p>[成績評価の方法] 出席することを前提として、テストや提出を求めたレポート、レジュメなどの出来具合を総合的に判断して、評価します。</p>	<p>[参考文献] その都度指示します。</p>			
<p>[教科書] 下川浩一「日本の企業発展史」 講談社現代新書</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習	02 03	通 期 通 期	4 単位 4 単位	稲 別 正 晴
<p>[演習概要・学習目標] 経営学は、企業の構造や行動を分析する社会科学である。それを理解するためには、社会をリアルにみつめ、考え、分析する態度と能力が必要であるが、それはそんなに容易なことではない。この科目は、そのための入門セミナーである。具体的には、次のような学習目標をもって行われる。 ①社会をリアルに見つめ、考える態度を習慣化することにつとめること ②経営学に接近するために、興味あるテーマを探し求めること ③自分の意見を発表し、他人の意見を理解するという姿勢を身につけること ④カリキュラムを理解し、コース選択に備えること まずは、新しい「知識」を得るだけでなく、それを社会の動きの中で考え、議論することから出発しよう。</p>	<p>[演習計画] 前期 前期の課題の一つは、これからの学習に必要な基礎的テクニックの習得である。この中には、ガイダンス、レポートの書き方、発表の仕方、図書館の利用方法、資料収集やワープロ・ソフトの習得が含まれる。 二つ目は、テキストを使用してグローバル化時代における経営についての国際的視野を身につけることである。今日、企業経営はそれぞれの歴史的、文化的特徴を持ちながらも、いわゆるグローバル・スタンダードという言葉に象徴されるように、普遍的なルールでの競争という様相を強めている。従って、経営学を学ぶ上で国際的視野を養うことはきわめて重要である。 後期 現実の企業経営の諸課題を取り上げて、それらを経営学的に分析することを学ぶ。このために新聞、雑誌、さらにはインターネットを通じた資料を利用する。 この中で各演習生は特定のテーマについてレポートを作成し、発表しなければならない。</p>			
<p>[成績評価の方法] 基礎演習は出席し、授業に参加する（質問・意見を述べ、発表する）ことが最優先されます。従って、成績評価は授業への参加度とレポートにもとづいて行います。</p>	<p>[参考文献] 適宜指示する。</p>			
<p>[教科書] 榎原英資編 『日米欧の経済・社会システム』 東洋経済新報社 1995年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習	04	通 期	4単位	井上 義祐
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>これからの経営学部での勉学とそれに引き続く社会での活躍に必要な基礎知識を身につけ、何が問題かを考え、問題について自分で調べ考えをまとめることを学ぶ。より具体的には</p> <p>①社会をリアルに見つめ、考える態度を習慣化する事に努めること ②経営学に接近するために、興味あるテーマを探し求めること ③自分の意見を発表し、他人の意見を理解するという姿勢を身につけること ④カリキュラムを理解し、コース選択に備えること</p> <p>を学習の目的とする。</p>	<p>[演習計画] この講義では、左記学習目標を達成するために、教科書や文献を私と受講学生全員が一体となって、調べ、人前で発表し、意見をかわし、書きものにまとめるなど、全員が参画することを狙って次ようなことを試みる。</p> <p>(1) 追って指示する教科書を用い、21世紀の社会人として諸君が活躍するうえで興味深く比較的分かり易い事項について自分で調べ見解を述べて貰う。また、折に触れ、新聞や雑誌の切り抜きなどを用い、諸君に意見を発表し議論して貰う。</p> <p>(2) 設備条件が許す限り、諸君が実社会で使うことになる、情報化時代にふさわしい情報リテラシを身につけ、レポートはワープロでまとめる訓練をし、可能ならばプレゼンテーションソフトも用いることを試みたい。その使用法は、初めの時期に実習するので、パソコンの未経験者でも、やる気さえあれば心配ない。</p> <p>以上を、なるべく楽しい雰囲気の中で学べるようにしたいが、そのためには必ず毎回出席することと、全員の予習にもとづく議論への参画・協力が必要だ。課題も多いだろうがそれだけに学ぶことも多い。ただし途中で脱落することなく最後まで頑張り通すようにして欲しい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義での議論や発表などの参画度合い、課題やレポートなどの総合評価とする。毎回出席を前提とする。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>その都度紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>追って指示する</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習	05	通 期	4 単位	長谷川 彰
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>経営学は、企業の構造や行動を分析する社会科学である。それを理解するためには、社会をリアルにみつめ、考え、分析する態度と能力が必要であるが、それはそんなに容易なことではない。この科目は、そのための入門セミナーである。具体的には、次のような学習目標をもって行われる。</p> <p>①社会をリアルに見つめ、考える態度を習慣化することにつとめること ②経営学に接近するために、興味あるテーマを探し求めること ③自分の意見を発表し、他人の意見を理解するという姿勢を身につけること ④カリキュラムを理解し、コース選択に備えること</p> <p>まずは、新しい「知識」を得るだけでなく、それを社会の動きの中で考え、議論することから出発しよう。</p>	<p>[演習計画]</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>署名は前・後期のテストを中心に、平常点にも考慮する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>その都度指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>別紙参照</p>				

<00B生対象>

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習	06	通 期	4単位	岡崎 守男
<p>[演習概要・学習目標] この演習では、皆さんに経営学部の学生として経営学をはじめとするさまざまな領域の学問を勉強していくうえでの基礎的な能力を修得することを期待しています。 そのため、まず社会で起こっている事象をリアルに見つめ、それを他のいろんなことと関連させながら考えを掘り下げていくという態度を身につけてください。この演習でも、皆さん一人ひとりに経営学にかかわる課題を見つけて、最終的にはそれをレポートにまとめる作業をやらせようと考えています。同時に、お互いにそれをみんなの前で発表し、議論ができればと願っています。 また、初めての大学生活のなかでいろいろ分からないこと、困ったことが出てくると思います。その場合には、遠慮なく担当教員に相談してください。そして、身近に友達をつくり、キャンパス生活にもなれる場としてこの演習を十分に活用してください。なお、基礎演習などでの勉強をとおして、自分が今後さらに何をしたいのかを見定め、2年生からのコースの選択に結びつけるようにしてください。</p>	<p>[演習計画] いちおうテキストを使って勉強しますが、こちらからテキストをはみ出して話をすることもあるし、皆さんのほうから大いに質問して脱線させてくれて結構です。その意味で、初めから厳密な計画に沿って演習を行うつもりはありません。 ただ、いろんな問題に関心を持ってもらうために、例えばチャップリンの「モダンタイムズ」やその他のビデオ類の鑑賞などもできるかぎり行いたいと考えています。</p>			
<p>[成績評価の方法] 常時出席することを前提として、テスト、提出を求めたレポート、レジュメなどの出来具合を総合的に判断して評価します。</p>	<p>[参考文献] その都度指示します。</p>			
<p>[教科書] 下川浩一「日本の企業発展史」 講談社現代新書</p>				

<00B生対象>

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習	07 08	通 期 通 期	4単位 4単位	鬼塚 光政
<p>[演習概要・学習目標] 経営学は、企業の構造や行動を分析する社会科学である。それを理解するためには、社会をリアルにみつめ、考え、分析する態度と能力が必要であるが、それはそんなに容易なことではない。この科目は、そのための入門ゼミナールである。具体的には、次のような学習目標をもって行われる。 ①社会をリアルに見つめ、考える態度を習慣化することにつとめること ②経営学に接近するために、興味あるテーマを探し求めること ③自分の意見を発表し、他人の意見を理解するという姿勢を身につけること ④カリキュラムを理解し、コース選択に備えること まずは、新しい「知識」を得るだけでなく、それを社会の動きの中で考え、議論することから出発しよう。</p>	<p>[演習計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経営学部の専門科目の概要と体系および履修要領の説明 2. 図書館と計算機センターの利用方法について 3. 経営学の主たる研究対象である企業が現代社会において占めている位置や影響力や直面している課題について考察しながら、経営学を学習する意味を感得する。 4. 企業の仕組みと運営に関する問題を理解するための考え方や基礎的な概念を習得して経営学の専門的な学習に備える。 5. レポート作成要領およびプレゼンテーション要領 <p>*1～2回ゲスト講師を招き、経営国際化や環境問題等現代企業が直面している重要な問題について討議することも考えている。</p>			
<p>[成績評価の方法] 出席、レポート、授業中の発表・発言、テストの成績等を総合的に勘案する。</p>	<p>[参考文献] 奥村宏、『会社本位主義は崩れるか』、岩波新書 米倉誠一郎、『経営革命の構造』、岩波新書、 片岡信之編著、『要説 経営学』、文真堂 赤岡功 編、『現代経営学を学ぶ』、世界思想社 横博ノ大橋昭一編著、『経営学へのアプローチ』、ミネルバ書房</p>			
<p>[教科書] 追って指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習	09	通 期	4単位	片 岡 信 之
<p>[演習概要・学習目標] 最近の経済・経営の世界では、明治維新、第2次世界大戦後に匹敵するくらいの大変化が生じてきています。 従来は「大企業だから潰れるはずがない」と思っていたような企業が、潰れたり、生き残りのために合併や提携をしたり、系列関係もまったく新たに組みなおされたりしてきています。 このことは、皆さんは否応なしに身近で見聞きしていることでしょうか。あるいは新聞、テレビの報道や雑誌記事などでも、目にしていると思います。 国際化が進む中で、外資の参入が国内企業にどのようなインパクトを与えてきているか、それを中心に激動する現在の経済・経営の世界を見ていきたいと思っています。</p> <p>このような学習の過程を通じて、基礎演習では、併せて次のことをもまた、身につけてほしいと願っています。 ①社会をリアルに見つめ、考える態度を習慣化しよう努めること。 ②経営学に接近するために、興味あるテーマを探し求めること。 ③自分の意見を発表し、他人の意見を理解するという姿勢を身につけること。 ④カリキュラムを理解し、コース選択に備えること。</p>	<p>[演習計画] テキストは日本の企業が国際化の進んだ大競争時代を、どのようにして勝ち残ろうとしているのかに焦点をあて、さらに、①企業系列・企業集団、②金融ビッグバン、③外資系系列、④成長産業、⑤業種別動向、の5つの角度から企業の課題や戦略を浮彫にした面白い本です。 運営方法は、順次テキストから重要項目を適宜ピックアップして輪読するというやり方をとることとします。 輪読にあたっては、④発表者と、⑥質問・問題提起者と、⑦司会者とを毎回あらかじめ決めておいて、その人達を中心に運営していきます。 発表者と質問・問題提起者、司会者等は、自分が分担する部分については責任を持って前もってテキスト以外の文献にもあたって勉強していただくことが要求されます。特に発表者と質問・問題提起者は必ず自分の発表用のレジュメを用意して、ゼミ生全員に配布したのちに発表（プレゼンテーション）することを義務づけることとします。 また、内容の性質上、常に最新状況は変化していますから、新聞、テレビ、雑誌、インターネットによる情報収集等が必要となるので、そのような努力の出きる人の応募を期待しています。</p>			
<p>[成績評価の方法] 基礎演習は出席して発表や発言をすることが何よりも大切です。したがって、出席状況、授業への貢献度などの積極性で評価します。つまり、平常点評価を第一に重視します。また随時、レポートを課してそれと併せて評価します。</p>	<p>[参考文献] 授業時に、必要に応じて指示します。</p>			
<p>[教科書] 阿部正樹『外資参入で変わる企業系列・業界地図の読み方』日本文芸社、平成11年2月刊（ただし、最新版が新学期までに新たに出た場合はそれに切り替えますから、変更することがありうるので注意してください。最初の時間に指示します）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習	10 11	通 期 通 期	4単位 4単位	岸 本 裕 一
<p>[演習概要・学習目標] この経営学基礎演習では、学習目標として以下の4点を想定しています。すなわち、 1. 社会をリアルに見つめ、考える態度を習慣化することに努めること、 2. 経営学に接近するために、興味あるテーマを探し求めること 3. 自分の意見を発表し、他人の意見を理解するという姿勢を身につけること、 4. カリキュラムを理解し、コース選択に備えること、以上です。 これらのことを実現していくため、本学の持っているさまざまな優れた諸施設を有効に利用しながら、演習を進めていきます。すなわち常時計算機センターの実習室で演習を行い、受講生の基礎的な情報リテラシーの向上をめざします。また、学ぶための資料や文献の収集を行えるようになるために、インターネットによる検索や図書館での図書・雑誌検索の実習を行います。 この演習は、毎回、受講生の積極的な関与がなくては成立しません。そこが他の講義科目と異なるところです。したがって、規則正しい学習の態度と毎回の出席が望まれます。</p>	<p>[演習計画] <前期> 1. 大学生にとって必要な基礎的学習テクニック（レポートやレジュメの作成、演習での報告の仕方など）を習得する。 2. 簡単な経営学に関する文献を熟読して、その要約をワープロで作成する。 3. 図書館での情報検索実習を行う。 <後期> 1. 教科書を熟読して、内容を精緻に理解するとともに、そこに含まれるキーワードの意味を吟味する。 2. 2年生以降の系統的履修を促すために、履修指導を行う。</p>			
<p>[成績評価の方法] 出席の状況、普段からの授業への関与度、数回のテストの成績などの集約。</p>	<p>[参考文献] 進行にしたがって指示する。</p>			
<p>[教科書] 米倉誠一郎著『経営革命の構造』、岩波新書、1999年。</p>				

< O O B 生対象 >

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習	1 2 1 3	通 期 通 期	4 単位 4 単位	小 林 哲 夫
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>経営学は、企業の構造や行動を分析する社会科学である。それを理解するためには、社会をリアルにみつけ、考え、分析する態度と能力が必要であるが、それはそんなに容易なことではない。この科目は、そのための入門ゼミナールである。具体的には、次のような学習目標をもって行われる。</p> <p>①社会をリアルに見つけ、考える態度を習慣化することにつとめること ②経営学に接近するために、興味あるテーマを探し求めること ③自分の意見を発表し、他人の意見を理解するという姿勢を身につけること ④カリキュラムを理解し、コース選択に備えること</p> <p>まずは、新しい「知識」を得るだけでなく、それを社会の動きの中で考え、議論することから出発しよう。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>主として、経営学のケース研究の中から、優れたものをピックアップして、それについて討論を行います。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>普段の出席状況／レポートと勉学態度</p>	<p>[参考文献]</p> <p>Norman, R. and R. Ramirez, <i>Designing Interactive Strategy: From Value Chain to Value Constellation</i>, Wiley & Sons, 1994</p>			
<p>[教科書]</p> <p>その都度配布します。 参考文献から一部を使うこともあります。</p>	<p>Zell, D., <i>Changing by Design: Organizational Innovation at Hewlett-Packard</i>, ILR Press, 1997</p> <p>いずれも訳文があり、原文と共に授業中に配布します (購入不要)</p>			

< O O B 生対象 >

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習	1 4	通 期	4 単位	清 水 信 匡
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>経営学は、企業の構造や行動を分析する社会科学である。それを理解するためには、社会をリアルにみつけ、考え、分析する態度と能力が必要であるが、それはそんなに容易なことではない。この科目は、そのための入門ゼミナールである。具体的には、次のような学習目標をもって行われる。</p> <p>①社会をリアルに見つけ、考える態度を習慣化することにつとめること ②経営学に接近するために、興味あるテーマを探し求めること ③自分の意見を発表し、他人の意見を理解するという姿勢を身につけること ④カリキュラムを理解し、コース選択に備えること</p> <p>まずは、新しい「知識」を得るだけでなく、それを社会の動きの中で考え、議論することから出発しよう。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 論文とは何かを『論文の書き方』を読みながら理解する。 2 グループごとに適当なテーマを設定し、それについてまとめる。 3 2においてまとめたことを発表し、討論する。 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 『経営学入門』の第1部と第2部を読むことで経営の基本を理解する。 2 グループごとに興味のある経営問題を調べて発表する。 3 前期で理解した論文の書き方を応用し、経営に関連した論文をまとめる。 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>夏休みと冬休みの課題を主たる評価対象とする。なお、出席状況、授業における発言等も評価に加味する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>澤田昭夫著『論文のレトリック』（講談社学術文庫604）講談社1983年</p>			
<p>[教科書]</p> <p>澤田昭夫著『論文の書き方』（講談社学術文庫153）講談社1977年 伊丹敬之・加藤野忠夫著『ゼミナール経営学入門（改訂版）』 日本経済新聞社1993年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習	15	通 期	4 単位	鈴木 幾多郎
[演習概要・学習目標] 経営学は、企業の構造や行動を分析する社会科学である。それを理解するためには、社会をリアルにみつめ、考え、分析する態度と能力が必要であるが、それはそんなに容易なことではない。この科目は、そのための入門ゼミナールである。具体的には、次のような学習目標をもって行われる。 ①社会をリアルに見つめ、考える態度を習慣化することにつとめること ②経営学に接近するために、興味あるテーマを探し求めること ③自分の意見を発表し、他人の意見を理解するという姿勢を身につけること ④カリキュラムを理解し、コース選択に備えること まずは、新しい「知識」を得るだけでなく、それを社会の動きの中で考え、議論することから出発しよう。	[演習計画] <前期> 「情報化・少子高齢化・国際化」などが経営にどのような影響を与えるのかについて考える。 <後期> 前期の学習を踏まえて、各人の問題意識に基づき、レポートを作成し報告する。			
[成績評価の方法] その都度指示する。	[参考文献]			
[教科書] その都度指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習	16	通 期	4 単位	鈴木 幾多郎
[演習概要・学習目標] 経営学は、企業の構造や行動を分析する社会科学である。それを理解するためには、社会をリアルにみつめ、考え、分析する態度と能力が必要であるが、それはそんなに容易なことではない。この科目は、そのための入門ゼミナールである。具体的には、次のような学習目標をもって行われる。 ①社会をリアルに見つめ、考える態度を習慣化することにつとめること ②経営学に接近するために、興味あるテーマを探し求めること ③自分の意見を発表し、他人の意見を理解するという姿勢を身につけること ④カリキュラムを理解し、コース選択に備えること まずは、新しい「知識」を得るだけでなく、それを社会の動きの中で考え、議論することから出発しよう。	[演習計画] <前期> 「情報化・少子高齢化・国際化」などが経営にどのような影響を与えるのかについて考える。 <後期> 前期の学習を踏まえて、各人の問題意識に基づき、レポートを作成し報告する。			
[成績評価の方法] 授業中の発言内容、レポートによって評価する。	[参考文献]			
[教科書] その都度指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部基礎演習	1 7	通 期	4 単位	野 田 俊 範
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>経営学は、企業の構造や行動を分析する社会科学である。それを理解するためには、社会をリアルにみつけ、考え、分析する態度と能力が必要であるが、それはそんなに容易なことではない。この科目は、そのための入門ゼミナールである。具体的には、次のような学習目標をもって行われる。</p> <p>①社会をリアルに見つけ、考える態度を習慣化することにつとめること ②経営学に接近するために、興味あるテーマを探し求めること ③自分の意見を発表し、他人の意見を理解するという姿勢を身につけること ④カリキュラムを理解し、コース選択に備えること</p> <p>まずは、新しい「知識」を得るだけでなく、それを社会の動きの中で考え、議論することから出発しよう。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>①教科書を用いて現代の社会について考える。 ②新聞・雑誌などの資料を用いて現代の企業経営について考える。 以上の課題に関して、学生による報告・質疑・討論を中心にして進めてゆく。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>①出席状況②報告および質疑・討論への参加状況③レポート 以上をもとにして、総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>適宜指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>適宜指示する。</p>				

「経営学部文献講読」クラス一覧

クラス	担当者	頁	クラス	担当者	頁
01	稲別 正晴	316	08	津戸 正廣	319
02	西村 順二	316	09	本多 毅	320
03	太田 一朗	317	10	本多 毅	320
04	隅田 孝	317	11	矢倉 伸太郎	321
05	坂上 学	318	12	山本 浩二	321
06	桜井 久勝	318	13	梁 官洙	322
07	鈴木 幾多郎	319			

〔注意〕

- (1) ゼミナール形式で授業を行うため、定員を30名とするが、予備登録（先着順受付）によって受講者の決定を行う。
- (2) どのクラスも出席を重視する。一定の成果を上げるためには、授業への継続的な出席が欠かせないからである。
- (3) 学則上、この科目は、経営学部教育科目の学部共通選択科目（4単位）に位置づけられている。
- (4) 募集は次の日程で実施する。

〈日 時〉 3月22日（水） 9：10～15：00（11：30～12：30は昼休み）

〈申込受付〉 学務課窓口

〈注〉曜日・時限、時間割コードについては、授業時間割表でよく確認すること。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	01	通 期	4 単位	稲 別 正 晴
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめに勉強してみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①もの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>今日、ますます多くの企業が国際的に活動し、さらに企業の合従連衡は国境を越えて進んでいます。したがって、いまや企業経営を学ぶ上で国際的視野を取り入れることはきわめて重要であります。</p> <p>この経営学文献講読では企業経営についての国際的視野を養うことを目的として様々な文献を取り上げて学修します。</p> <p>なお、文献としてはテキスト以外に、「ジェトロ・センサー」(JETRO)、「日経ビジネス」(日経B P社)、「ダイヤモンド・ハーバード・ビジネス」(ダイヤモンド社)等から適宜論文を選びます。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業への参加(出席、質問や意見、発表)度、およびレポートにより総合評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>適宜指示します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>稲別正晴・全 在紋編著 『東太平洋圏企業経営への提言』 同文館 1995年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	02	通 期	4 単位	西村 順二
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめに勉強してみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①もの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 コースの紹介 2 Marketing Channel 3 Internatinalization of Retailing 4 Global Marketing 5 Change of Channel 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末の試験及び講義における貢献等から総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>トピックに応じて適時指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>教科書については、講義の開始時にコピーを配布する予定である。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読 ビジネスの国際展開について学ぶ。	03	通 期	4 単位	太 田 一 朗
[講義概要・学習目標] 経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめに勉強してみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①もの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。	[講義計画] <前期> 国際マーケティングを中心に市場開発、商品開発、価格戦略などについて読む。 <後期> グローバル企業の国際戦略についてグループで調査し、クラスで発表する。			
[成績評価の方法] クラス出席とクラスでの発表による。補完的にレポートを求める事もある。	[参考文献]			
[教科書] 適宜指示、または配布する				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	04	通 期	4 単位	隅 田 孝
[講義概要・学習目標] 経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめに勉強してみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①もの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。	[講義計画] 以下に概ねの予定を示しておく。この他、必要に応じて指示をする。 1. マーケティングの意義 2. 戦略的マーケティング 3. 企業戦略とマーケティング・ミックス 4. 消費者行動1 5. 消費者行動2 6. 市場調査 7. 製品、ブランド、価格戦略 8. 広告媒体とコミュニケーション 9. 日本の流通とチャネル戦略 10. 新たなマーケティングの展開 実際にワープロソフトを使って文章を書くことも予定している。よって、コンピュータを使った講義を数回行う。			
[成績評価の方法] 出席状況、授業態度、期末試験により総合的に評価する。	[参考文献] 伊丹敬之・加護野忠男(著)『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社、1989年。			
[教科書] (社)日本マーケティング協会(編)『マーケティング・ベーシック』同文館、1997年。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	05	通 期	4単位	坂上 学
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめに勉強してみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統計学の歴史は人間のドラマ 2. プラトンと知の不確実性 3. 世界最古の複式簿記書の著者 4. 19世紀、社会物理学を提唱したケトレー 5. 回帰分析の父 6. ロイズ保険組合の歴史 7. ケインズの確率論 8. 統計の先達としてのナイチンゲール 9. 杉享二と日本初の人工統計調査 10. その他 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常点 (レポート含む) による</p>	<p>[参考文献]</p> <p>特になし</p>			
<p>[教科書]</p> <p>福井幸男著『知の統計学2—ケインズからナイチンゲール、森嶋外まで—』(共立出版)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	06	通 期	4単位	桜井 久勝
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめに勉強してみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>企業の決算書(財務諸表)は、企業に関する情報の宝庫です。この講義では、そのような決算書を読みこなして、個々の企業の収益力や倒産の危険性の有無、将来の成長見通しなどを評価する能力を身につけます。このためまず最初に、教科書を輪読して財務諸表の分析方法をマスターします。会計の知識がなくても、まったくの初歩から説明しますので、心配いりません。授業では、前もって教科書の担当箇所を割り当てておいて、順に勉強の成果を発表してもらいます。分析の方法をひとつとおりマスターできたら、今度は数個のチームに分かれて、現実の会社の財務諸表を自分で分析してみましょう。ホンダと日産、ダイエーとイトーヨーカ堂、アサヒビールとキリンビールなど、興味深い比較分析がいろいろあります。将来に自分が就職する企業を考えるとときの参考にもなるでしょう。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>普段の発表や議論、不定期に行う小テスト、および期末試験の成績を総合して評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>この講義では決算書の「読み方」を中心に解説しますので、決算書の「作り方」は最小限度しか説明しません。作り方に興味がある人は、次の文献を参考にして下さい。桜井久勝『会計学入門』日本経済新聞社(日経文庫)、1998年は、初心者用の入門書です。もう少し本格的に勉強する人は、桜井久勝『財務会計講義(第2版)』中央経済社、1998年を見て下さい。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>桜井久勝『財務諸表分析』中央経済社、1998年。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	07	通 期	4 単位	鈴木 幾多郎
[講義概要・学習目標] <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめに勉強してみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①もの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。</p>	[講義計画] <p>今日、国際化の進展に伴って、日本企業の経営の特徴について英語で説明する必要性が高まっている。文献講読では、日本ビジネスの特徴をどのように英語で表現するかについて学び、その能力を養いたい。</p>			
[成績評価の方法] <p>授業中の発言内容、レポートによって評価する。</p>	[参考文献]			
[教科書] <p>米山司理・リチャード・ネイサン『英語で話す日本ビジネスQ&A—ここが知りたい日本の会社』講談社インターナショナル、1998年。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	08	通 期	4 単位	津戸正広
[講義概要・学習目標] <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめに勉強してみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①もの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。</p>	[講義計画] <p>経営学の文献を読みこなすためには、読んだ内容を理解して、まとめることが肝要です。つまり、読む能力は、まとめる能力、書く能力と密接に関連しています。従って、授業では、伝えたい内容をどのように整理し分類し構成するかということから始めます。現代では、この整理・分類・記述という作業はコンピュータを利用してなされることが多いので、授業でも、できるだけコンピュータを活用します。 4月は、なによりもまず、経営学的関心とテーマの発見が重要であることを確認します。機械は、テーマを発見してくれません。 5月は、コンピュータを利用する作法を身につけ、「一太郎」などのワープロ・ソフトの基本を学びます。電子メールに関する注意もします。 6月および7月は、議論を体系的・構造的に展開するための技法を勉強します。「アウトライン(リンク)」機能および「段落書式」機能を最大限に活用します。夏休みには、各自興味のあるテーマを見つけて、レポートを作成してもらいます。 9月および10月は、表計算ソフト「エクセル」の基本を身につけます。文献目録や読書ノートとして活用する方法を修得します。 11月から1月までは、インターネットを通じた検索の仕方とHTML言語の特徴を学び、簡単なホームページが作成できるようにします。余裕があれば、「アクセス」を使って、文献目録データベースを設計します。「エクセル」と「アクセス」の違いを把握します。 以上のような実習に取り組みますが、つねに経営学的なものを見方を養うことを忘れないでください。</p>			
[成績評価の方法] <p>授業への出席を最も重視します。毎回、実習結果をファイルに保存して提出してもらいます。夏休みには研究レポートの作成を課します。課題の提出、積極的な質問、レポートの充実度などを総合的に判断して評価します。</p>				
[教科書] <p>プリントを配付します。</p>	[参考文献] <p>授業の中で、指示します。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	09	通 期	4 単位	本 多 毅
【講義概要・学習目標】 <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめに勉強してみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。</p>	【講義計画】 <p>基本的にテキストの章構成にしたがって進行していくが、その流れの中で関連する話題や最新のトピックスなどについても、必要に応じて資料などを交えて授業を進めていく予定。</p>			
【成績評価の方法】 <p>出席を重視する。それにレポート、授業態度（例えば、発言の回数）などを合わせて総合的に評価する。無断欠席、遅刻は厳禁。</p>	【参考文献】 <p>必要に応じて授業中に適宜指示していく。</p>			
【教科書】 <p>土屋守章 著『企業と戦略』 メディアファクトリー</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	10	通 期	4 単位	本 多 毅
【講義概要・学習目標】 <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめに勉強してみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。</p>	【講義計画】 <p>基本的には、テキストの章構成にしたがって進行していく。但し、必要に応じて資料などを補足しながらリアルタイムのトピックスに触れる機会もできる限り設けていく予定。</p>			
【成績評価の方法】 <p>出席を第 1 に重視。それにプラスしてレポート、授業態度（例えば、発言の回数）などを合わせて総合的に評価。無断欠席、遅刻は厳禁。</p>	【参考文献】 <p>必要に応じて適宜授業中に指示する。</p>			
【教科書】 <p>伊丹敬之・加護野忠男著 『ゼミナール経営学入門』 日本経済新聞社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	11	通 期	4 単位	矢 倉 伸太郎
【講義概要・学習目標】 <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめに勉強してみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①もの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。</p>	【講義計画】 <p>〈前期〉 後述の『ベーシック 会社入門』をテキストにして、現代企業の諸側面についての理解を深めます。 〈後期〉 後述の『ベーシック 経営入門』をテキストとして、現代企業の諸側面のうちとくに、その経営活動面についての理解を、さらに深めて行きたいと思います。</p>			
【成績評価の方法】 <p>成績は出席状況、平素の授業態度、前期と後期のレポートの評点又は前期と後期に行うテストの評点とを、総合的に評価して決めます。</p>	【参考文献】 <p>必要があれば紹介します。</p>			
【教科書】 〈前期〉 日本経済新聞社編『ベーシック 会社入門』 同社 1994年(2版)(日経文庫 608) 〈後期〉 日本経済新聞社編『ベーシック 経営入門』 同社 1990年(日経文庫 616)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学部文献講読	12	通 期	4 単位	山 本 浩 二
【講義概要・学習目標】 <p>経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめに勉強してみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①もの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。</p>	【講義計画】 <p>前期は、メーカーと流通とが販売情報や需要予測といった情報を共有し、生産、物流、販売を一体化することによって、ものの流れを合理化・効率化しようとするサプライチェーン・マネジメントについての文献を輪読して勉強します。 後期は、いま我が国でベンチャー企業による新産業創出と経済の活性化が期待されている状況に関して、ベンチャービジネスの文献を輪読することによって、日本のベンチャービジネスについて勉強します。</p>			
【成績評価の方法】 <p>日常の出席状態と担当箇所の報告内容およびレポートによって評価します。</p>	【参考文献】 <p>必要に応じて指示します。</p>			
【教科書】 〈前期〉 ダイヤモンド・ハーバービジネス編集部『サプライチェーン理論と戦略』ダイヤモンド社 〈後期〉 適宜、指示または資料を配布します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営学文献講読	13	通期	4単位	ヤン 梁 カンス 官 洙
[講義概要・学習目標] 経営学部で学ぶ専門分野に関する日本語の文献を読むことを通じて、「経営学」の勉強が「おもしろい!」「ひとつまじめに勉強してみよう!」と思ってくれることを期待しています。それぞれの文献が日本や世界の企業社会の「現実」とどのように取り組んでいるのか、筆者の見解や考え方はどうなのか、どのようなアプローチやスタイルで本やペーパーにまとめているのか等々を文献を読むことを通じて学んで欲しいのです。やがて専門ゼミでより深く勉強することになりますが、問題意識を明確にし、各自の研究テーマを発見するように努めて欲しいのです。勉強したことを「書いてまとめてみる」「人前で口頭発表してみる」「意見をかわしてみる」ことが皆さんの潜在力を顕在化し、実力を飛躍的に高めることになるでしょう。この講義の目標は、皆で①ものの見方・考え方を学ぶこと、②テーマを発見すること、③書く力・発表する力をつけること、④社会的関心を高めることにあります。	[講義計画] 1. 日本の職場の実態 2. 日本の労務管理 3. 日本的人事考課 4. 「日本的経営」とヨーロッパ労働者 5. アジアの日系企業の労務管理 6. 日本企業社会の変化			
[成績評価の方法] 出席、レポート、授業時の態度を総合して評価	[参考文献] 熊沢誠「日本の労働者像」、ちくま学芸文庫、1993 牧戸孝郎 著「岐路に立つ韓国企業経営」名古屋大学出版会、1994			
[教科書] 熊沢誠 「日本的経営の明暗」筑摩書房、1989年初版				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論	01	通期	4単位	牧野源泉
[講義概要・学習目標] ミクロ経済学を中心に講義をします。したがって、この講義の目的は、市場メカニズムの機能とそのパフォーマンスを冷静に理解することにあります。 まず、個人の消費計画や企業の生産計画はどのように立てられるのか、また、価格は消費計画と生産計画の不整合をどのように調整するか、といった市場メカニズムの基本的な問題を説明します。続いて、市場メカニズムの評価に目を向け、広い意味での「市場の失敗」に言及し、公共政策の対象となる問題を考えます。 多くを欲張るつもりはありませんが、近年注目されているゲーム理論、不完全情報や不確実性の経済学ではどのようなことを問題にしているかにも触れる予定です。	[講義計画] 1 ミクロ経済学とマクロ経済学 2 需要と供給 3 消費者行動と需要曲線 4 労働供給の理論 5 費用構造と生産 6 市場均衡と資源配分 7 独占の理論 8 ゲームの理論 9 市場の失敗と公共部門の役割 10 不確実性とリスク 11 不完全情報の経済学 12 異時点間の資源配分			
[成績評価の方法] 講義中に時折行う小テストと学年度末試験とによって評点をつけます。	[参考文献] ハル・バリアン（佐藤隆三監訳）『入門ミクロ経済学』勁草書房 西村和雄『ミクロ経済学入門』岩波書店 倉澤資成『入門価格理論』日本評論社 J.スティグリッツ（藪下史郎他訳）『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社			
[教科書] 伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済原論	02	通期	4単位	森 誠
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近代経済学のマクロ経済学を講義します。</p> <p>まず、新聞等でよく目にする国民所得統計を紹介し、この国民所得統計自体は恒等式といった会計的性質を持っていますが、経済学としては何が原因で失業が生じているのか、という因果関係を表す決定式を考えることが重要です。そこで、雇用量、GDPの決定についてのマクロ経済学を学習します。中心となるのは、ケインズ流のマクロ経済学の標準的解釈ですが、適宜、新古典派流のマクロ経済学等も紹介したいと思います。</p> <p>近代経済学では多少の数学が使われていますが、それらについても講義で簡単に解説しますので、前もって数学を知らなくとも理解はできると思っています。そして、慣れるために、また、曖昧さを排除するためにほぼ毎回練習問題を解きます。まじめに勉強すれば最初はチンプンカンプンでも1年後にはずいぶん慣れているはずですよ。</p> <p>講義では教科書の森担当の章を参考にします。この章はかなり進んだ内容も含んでいますが、講義では初歩から解説します。そして最終的には3節までの内容を理解することを目的とします。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、GDPと3面等価の原則 2、実質と名目 3、ISバランス—貿易黒字と貯蓄— 4、GDP決定論の基礎 5、均衡予算定理 6、IS曲線 7、LM曲線 8、財政政策と金融政策の効果 9、リカード命題 10、長期の最適化と財政政策の有効性 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>年度末試験</p>	<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉川洋『マクロ経済学』岩波 ケインズ派の立場によるマクロ経済学 ・浜田・安井『マクロ経済学の基礎』有斐閣 問題形式（命題に対する解説）をとっているのがポイントを押さえる、あるいは、公務員試験対策には向いています。 ・瀬岡吉彦『資本主義経済の理論』ミネルヴァ 新古典派、ケインズ派の問題点の指摘とそれに対する著者の考えが展開されています。通説に疑問を感じたとき見てみるとよいでしょう。ただし難しい本です。 <p>その他、公務員試験等を目指している人は、講義を聴くだけでは十分ではありません。簡単な問題集を入手して各自で解く必要があります。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>惣宇利紀男、服部容教編『21世紀の経済政策』日本評論社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営管理論	01	通期	4単位	亀 田 速 穂
	02	通期	4単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この科目が取り扱う内容は、大別して3つの企業経営上の課題領域をめぐって展開されてきている。1つは、人間協働の促進という動機づけの領域に関する研究であり、2つは、さまざまな仕事の規定とそのグループ化およびそれらの相互の関係づけという組織構造論の領域に関する研究であり、3つは、企業の環境適応をはかる経営戦略論の領域に関する研究である。これら3つの主要課題は歴史的にもこの順序で生成発展してきた。</p> <p>まず動機づけ理論について、科学的管理法、人間関係論、人的資源論の理論命題とそれに基づいて展開される主要な管理手法について説明し、次いで、組織構造論について、古典的組織原則論、職務・責任・権限論、垂直的・水平的職能分化、基本的組織形態、集権・分権・動態組織などについて述べる。さらに、経営戦略論について、環境適応の観点から経営環境論の発展を跡づけ、戦略選択の議論から経営戦略、そして戦略経営への流れを追う。最後に、動機づけ、組織構造、経営戦略をそれぞれ相互に関連づけ、意味のある1つのまとまりとして総合的に理解することの必要性について述べる。</p> <p>この科目における学習目標は、全体としての企業の行動を総合的に理解することにある。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 経営管理の総合的理解にむけて 2 動機づけ理論の発展 3 組織構造論の展開 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 4 経営戦略論の登場 5 経営戦略から戦略経営へ 6 企業の戦略適合 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期はレポート（400字詰め5枚程度）、後期は試験を課し、両者を総合して成績を評価する。したがって、後期の試験だけでは単位の修得は困難である。なお、出欠状況を評価に加味することがある。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>植村省三『現代企業の経営管理』白桃書房 土屋守章『企業と戦略』リクルート出版</p>			
<p>[教科書]</p> <p>伊藤淳巳・西門正巳・亀田速穂（共著）『現代経営学の生成発展』（白桃書房）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商学総論	01	後期集中	4単位	中田 善啓
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>企業が行っている取引を商学の観点から説明する。特に取引制度の進化のメカニズムを明らかにし、ダイナミズムに力点をおきたい。取引活動の目的は市場を形成することによって、企業内、企業間、消費者間の取引の開始から終結までの活動をコントロールして、需要と供給のマッチングを達成することである。具体的にはチャネル、製品、価格、販売促進を中心に企業戦略と関連させて説明する。同時に、これらの戦略はダイナミックに変化していくので、その進化のプロセスが重要である。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 商学とマーケティング 2. 複雑系としてのマーケティング・システム 3. マーケティングと取引 4. マーケティングの進化 5. マーケティング・チャネルとその進化 6. 技術選択とその進化 7. 流行のメカニズム 8. 取引慣行とグローバル化 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末テストを中心に成績を評価するが、場合によってはレポートの提出を求めることがある。学期末テストは客観テストと論述式のテストからなるであろう。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>中田善啓著『マーケティング戦略と競争』 同文館 1992年 中田善啓著『マーケティングと組織間関係』 同文館 1986年 テドロウ『マス・マーケティング史』（ミネルヴァ書房） 授業中のトピックについてその都度参考書、資料を紹介したい。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>中田善啓著『マーケティングの進化』同文館 1998年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商学総論	02	通 期	4単位	西村 順二
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>商学は経済学や経営学とは異なり、独自の学問体系を構築してきた。本講義では、この商学の基本的な考え方を講述する。商学理論を取得することにより、現実社会における事業者や商業企業の行動原理を説明する力を養うことを目指す。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 コースの紹介 2 商学の対象概念 3 商業構造の特性 4 流通と商業の理論研究 5 小売商業の機能 6 小売商業の構造 7 卸売商業の機能 8 卸売商業の構造 9 商業と行政—神戸の事例 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末の試験及びレポート等により総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>鈴木安昭他編『マテリアル流通と商業』 第2版、有斐閣、1997年。 日本経済新聞 日経流通新聞</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しない。 適時必要文献は指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営情報論		通 期	4 単位	佐々木 宏
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>産業の情報化と情報の産業化が急速に進展しているなかで、各企業は、コンピュータをベースにした経営情報システムをどのように構築しているのだろうか。本講座では、情報システムと企業経営との関わりについて、さまざまな視点から学習する。講義はすべてプロジェクター投影により行う。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>【前期】</p> <p>①経営情報システムの構造 ②経営情報システムの歴史 ③情報と意思決定 ④意思決定支援システム</p> <p>【後期】</p> <p>⑤経営戦略 ⑥戦略情報システム ⑦情報技術の動向 ⑧経営情報システムの構築手法 ⑨トピックス サブライチェーン・マネジメント、E I S (Executive Information System) など</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期はレポート。後期は試験。両方とも提出（受験）しないと評価は例外なく「X」となる。これに平常点を加味して最終評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>寺本義也『ネットワーク・パワー』NTT出版 浅田孝幸『経営情報ネットワークの理論と実際』東京経済情報出版 ほか</p>			
<p>[教科書]</p> <p>佐々木宏『経営情報システム』同文館</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
会計学原理		通 期	4 単位	桜井久勝
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>企業の会計報告書は、学生諸君の成績表と同様に、企業の業績の優劣や潜在能力を映し出す鏡です。企業の業績や能力を評価するための会計についての知識は、学生諸君が将来にビジネス社会で活躍するためにも不可欠です。この講義では、企業のさまざまな活動が最終的に会計報告書に集約されていく仕組みと、その背後にある社会的なルールについて説明します。</p> <p>そのような企業会計の世界にも、金融ビッグバンや国際化の波が押し寄せてきました。いま日本の企業会計は大きな変革期にさしかかっています。バブルの崩壊で生じた不良債権・不良設備の取扱い、保有株式などの時価暴落の影響、高齢化社会の到来と企業の年金債務など、重要な問題が次々と起きています。そこでこの講義でも、そのような最新のトピックスも織りませながら、会計の世界から企業経営のさまざまな分野を幅広く解説します。そして1年間の講義が終わるまでに、会計のルールや報告書の見方を修得するだけでなく、企業経営をめぐる諸問題を具体的に生き生きと理解する能力が身につくことを目標とします。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期</p> <p>①財務会計の機能と制度 ②利益計算の仕組み ③会計理論と会計原則 ④現金預金と有価証券 ⑤売上高と売上債権 ⑥棚卸資産と売上原価</p> <p>後期</p> <p>⑦固定資産と減価償却 ⑧営業上の負債と他人資本 ⑨資本の充実と利益処分 ⑩財務諸表の作成と報告 ⑪企業集団と連結決算 ⑫国際取引の会計</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>不定期に行う小テストと期末試験によって総合評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>桜井久勝『会計学入門』日本経済新聞社、1999年。 桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』有斐閣、1998年。 桜井久勝『株式会社会計』税務経理協会、1998年。 桜井久勝『財務諸表分析』中央経済社、1996年。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>桜井久勝(著)『財務会計講義(第2版)』中央経済社、1998年。 もし講義開始までに第3版が間に合えば、それを使います。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
財 務 諸 表 論		通 期	4 単位	チョン ジェ ムン 全 在 紋
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>〈 講 義 概 要 〉 企業はその社会的性格のゆえに、自己の財政状態および経営成績を世間に公表する責任をもっている。貸借対照表や損益計算書をはじめとする財務諸表は、そのために作成された、いわば企業の〈証言〉である。企業にとってこわいのは、虚偽の証言が発覚したときに受ける懲罰だけである。だから、ウソがばれないように巧妙に偽証している可能性も大いにある。財務諸表は、いったい、どこまでが真実で、どこまでが企業エゴの発露なのか。それを見分ける目を養う。</p> <p>〈 学 習 目 標 〉</p> <p>① 簿記 I の学習内容を基礎にして、株式会社の会計を理解する。 ② 3年次以降に履修する経営学部専門科目の基礎となるべき本講義の役割を踏まえつつ、損益計算書や貸借対照表など、財務諸表の基本的な構造と機能を理解する。 ③ 会計が「企業の言語」として果たす認識論的意義を明らかにする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>[前 期]</p> <p>① オリエンテーション(1回) ② 会計必要論(戦略経営・節税効果等)(1回) ③ 計算書類論(AV使用)(2回) ④ 会計基礎論(2回) ⑤ 貸借対照表論(3回) ⑥ 損益計算書類論(3回)</p> <p>[後 期]</p> <p>⑦ 利益概念論(2回) ⑧ 制度会計論(2回) ⑨ 財務開示論(2回) ⑩ 経営分析論(2回) ⑪ 会計言語論(4回)</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>原則として、レポート(前期中1回)と筆記試験(後期学年末1回)との総合点で評価する。なお、日本商工会議所簿記検定試験2級・1級合格者には、別途加点評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>武田隆二 『会計』 税務経理協会</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経 営 学 史		通 期	4 単位	野 田 俊 範
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営学は、ドイツとアメリカにおいて今世紀初頭に成立した若い学問である。そしてその経営学は、ドイツ、アメリカ、および日本においてめざましい発展を遂げてきたのである。日本における経営学は、ドイツ経営学を骨とし、アメリカ経営学を肉として発展してきたと言われるが、特に学問としての経営学の体系や方法論などの点で、ドイツ経営学によって多大の影響をうけてきたことは事実である。</p> <p>本講義では、そのドイツ経営学の生成・展開の歴史を概観し、主要な理論傾向について概説するとともに、今後の発展の方向について考えることとしたい。その際、学説と歴史的・社会的背景との関連を明らかにすることを重視する。いかなる学説も、その社会的・経済的・文化的背景による制約から逃れることはできないからである。</p> <p>ドイツ経営学の歴史を学ぶことを通じて、今日世界の経営学で主流をなしているアメリカ流の経営管理学とは違う、経営学の今ひとつの可能性を知ってほしい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>I. 経営学史研究の方法 II. ドイツ経営学の歴史 1. 私経済学の成立 2. 私経済学から経営経済学へ 3. 経営経済学の展開 4. 社会的市場経済と経営経済学 5. 共同決定と経営経済学 6. 批判的経営学の系譜 III. 現代のドイツ経営学 1. ドイツ経営学の意義 2. ドイツ経営学の展望</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験により評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>大橋昭一編著『現代のドイツ経営学』税務経理協会 1991年。 海道ノブチカ/深山明編著『ドイツ経営学の基調』中央経済社 1994年。 その他、必要に応じて適宜指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営史		通 期	4 単位	矢 倉 伸太郎
[講義概要・学習目標] 経営史とは、企業の生産・労務・販売・財務・経営者の意思決定過程といった経営諸活動を、歴史的事実に研究するものです。さて、われわれが経営史を勉強するのは、つぎのような理由によるものと思われま。すなわち、われわれは現在と同様にこれから上記の企業経営の諸活動とは無関係に、生活していくことはできないでしょう。それゆえ、われわれは現在において、企業の今後の経営諸活動がどのようになるのかといった事について、自分なりの見方や考え方を持たねばなりません。そして、この自分なりの見方や考え方を持つための一手段として、企業の過去の経営諸活動を歴史的事実に研究するのです。つまり、温故知新であります。本講義では、わが国の個別企業を対象として、その企業の経営諸活動を通して、その企業の発展過程を、歴史的事実に考察していく予定です。	[講義計画] 〈前期〉 わが国の個別企業を取り上げ、その企業が発展していく過程を、上記の経営諸活動のうち、主として生産活動の側面から、歴史的事実に考察する予定です。なお、授業は教科書を使用せず、板書と口述によって行いますので、授業への出席が不可欠です。 〈後期〉 前期に引き続き同様な内容で行います。			
[成績評価の方法] 成績は、つぎの1～3の全ての評点を総合的に評価して決めます。 1. 授業内容の理解を深めるために、時々授業時間中に行うレポート。2. 不定期な出席調査。3. 学年末試験。	[参考文献] 必要があれば紹介します。			
[教科書] 使用しません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
企業論		通 期	4 単位	稲 別 正 晴
[講義概要・学習目標] 企業は経済活動の単位であり、諸資源の調達、生産、流通などの活動を担っている。これらの企業は営利性の原則に基づいて市場経済の仕組みのもとで互いに激しく競争を行いながら活動している。そしてその活動は国内に限られず国際的である。また、今日多くの重要な役割を果たしている企業は法人企業の形態をとっており、その典型は株式会社である。そこでは企業の所有者である株主は経営の第一線から退き、経営は専門的経営者に委ねられ、いわゆる所有と経営の分離がふつうである。また、株式会社はそれぞれの役割を担った多くの人たちから構成されている組織体である。そこにさまざまな組織形態が生まれ、また権限関係が生じてくる。ところで現在、日本の企業システムの有効性が問われているが、グローバル化、情報化あるいは環境保護という大きな流れの中で、日本企業が構造変化を迫られていることは事実である。本講義では、典型的な現代企業の性質、行動、役割等について説明するとともに、現実の日本企業が抱えているさまざまな諸問題についても触れる。受講生諸君が現代企業についての理解を深めるとともに、日本企業が抱える諸問題をみずからの課題として探求することを期待する。	[講義計画] 講義は次の諸テーマについて進める 1. 企業とは、とくに企業の成立と市場の関係 2. 企業形態、とくに株式会社 3. 企業目的、諸概念と測定問題 4. 企業の諸決定、価格、産出量、投資 5. 企業の成長、内的成長と外的成長 6. 所有と経営の分離 7. コーポレート・ガバナンス 8. プリンシパル＝エージェントの理論 9. 取引費用の経済理論 10. 組織形態 11. 日本の企業システム 12. 日本企業の国際経営 13. 企業経営と環境問題			
[成績評価の方法] 前・後期の試験ならびにレポートによる（ただしレポートはEメールによる）	[参考文献] 教科書に記載、なお新しい文献については講義の都度指示する			
[教科書] 稲別正晴著『企業の基礎理論』法律文化社				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営財務論		通 期	4 単位	今 木 秀 和
【講義概要・学習目標】 企業はさまざまな経営資源を必要としている。人、物、金、情報などの資源がそれである。このうち金（カネ）という経営資源を対象として講義を行うのが経営財務論である。 カネは企業では資本といわれる。資本の調達、運用、利益処分がこの講義の主たる問題領域である。企業外部における資本の調達は資本市場で行われ、調達した資本の運用は企業内部で事業に投下され、また外部にも投資される。企業内部における財務管理、資本市場での調達・運用および配当政策がこの講義のなかみである。 経営財務の基礎知識を習得するのが学習目標である。	【講義計画】 前期 第1章 企業財務の基礎知識 第2章 資本の運用 第3章 資本の調達 後期 第4章 配当政策と利益処分 第5章 ポートフォリオと資本市場 第6章 企業財務論の新展開			
【成績評価の方法】 成績は前期と学年末のテストに基づいてつける。前期1回、後期1回のレポートは加点要素となる。出席も加点要素とする。	【参考文献】 岡部政昭著『企業財務論』新世社 明石雅弘他編『財務管理』有斐閣 若杉敬明他著『経営財務』有斐閣 村松司叙著『財務管理入門』同文館 後藤幸男編著『新経営財務論講義』中央経済社			
【教科書】 杉井弘和編著『企業財務論（改訂版）』（税務経理協会）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営労務論		前期集中	4 単位	面 地 豊
【講義概要・学習目標】 経営労務論は、「経営」における「労働」を扱った論である。「労働」を扱った論は、労働をおこなう人間＝労働者の側からの論と、労働を利用する「経営」の側からの論に分けておこなう。講義は両方の側からの論を通して、「経営労務」の内容を明らかにしていく。	【講義計画】 講義は、Ⅰ序論Ⅱ本論に分け、本論は、「基礎論」と「各論」に分けておこなう。 序論では「労働」「経営」などの基本概念を説明し、基礎論では「労働者問題」の学説史的説明をおこなう。各論では、賃金、労働時間、労働市場、労使関係、人事管理、モチベーション論などをそれぞれ経営労務に関わる諸問題について説明する。			
【成績評価の方法】 期末試験のみとする。	【参考文献】 基礎論についてはテキストを用いたが、本講義を中心とした参考文献は、その都度指示する。			
【教科書】 面地豊「経営社会学の生成」千倉書房				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
生産管理論		通 期	4 単位	鬼 塚 光 政
【講義概要・学習目標】 産業革命期の英・仏国に芽生え、19世紀末から米国で本格的に展開し、1970年代以降日本で新たに展開した「近代的生産管理」の生成・発展の過程を経済的、社会的、技術的等の背景を踏まえて段階的に跡づけ、各段階の代表的な生産管理の特徴、並びに意義と限界を講述する。この場合はじめに資本制企業における生産管理の基本的性格、およびその分析の視点とそための基礎概念を明確にする。 (1) 生産管理の基本的性格と分析視角 (2) 生産管理システムの分析に必要な基礎概念 (3) 各段階の代表的生産管理方式の形成条件、内容的特徴並びに意義と限界 (4) i E. SQC. OR. VE. SE等の経営科学的な手法の生産管理への適用 (5) 生産管理の実践と社会・自然との関係	【講義計画】 <前期> 1.オリエンテーション(1回) 2.生産管理の基本的性格と分析視角(5回) 3.中間試験(1回) 4.生産管理前史(3回) ①生産管理の萌芽 ②初期大量生産の成立 <後期> 5.生産管理の成立(4回) 課業管理の成立と展開 6.生産管理の発展(4回) 本格的な大量生産方式の展開 ー同時管理・システム管理 7.多種多様な生産型システム管理の展開 ーJIT, FA・CIM 8.国際化段階の生産管理 ー「日本の生産システム」の海外移転			
【成績評価の方法】 テスト(前・後期2回)の成績と出席状況を考慮する。	【参考文献】 田中一成、『<図解>生産管理』、日本実業出版社 国狭武巳、『現代生産システム論』、泉文堂 日本生産管理学会、『トヨタ生産方式』、日刊工業新聞社 門田安弘、『新トヨタシステム』、講談社 太田雅晴、『生産情報システム』、日科技連 田村孝文、『CIM入門』、日本能率協会 藤本隆宏、『生産システムの進化論』、有斐閣			
【教科書】 追って指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
マーケティング論		通 期	4 単位	鈴 木 幾 多 郎
【講義概要・学習目標】 市場創造は企業にとって永遠の課題であり、マーケティングはそれを担う企業の対市場活動である。 従来、日本企業は、パター・マーケティングを基本範疇として、マーケティング力を形成してきた。パター・マーケティングとは、市場シェアの向上を目指し、それを基盤とするパター(市場支配力)によって、市場創造を行なうとするマーケティングである。 しかし、今日、各産業市場の変化、規制緩和、独占禁止法の運用強化、日本市場の国際開放化、情報化など、市場の基礎的・制度的条件が大きく変貌し始めている。本講義では、これらの基礎的・制度的変化が日本企業のマーケティングにどのような変化を求めているかの分析を踏まえて、今後のマーケティングのあり方を取上げることにする。	【講義計画】 <前期> マーケティングの基本的知識と日本企業のマーケティングの特徴について講義する。 <後期> 新しいマーケティングの方向と具体的なケースについて講義する。			
【成績評価の方法】 前期・後期の試験とレポートで評価する。	【参考文献】			
【教科書】 嶋口充輝・石井淳哉『現代マーケティング(新版)』有非閣、1977年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
流 通 論 (旧流通経済論)		通 期	4 単位	岸 本 裕 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>流通とは、生産と消費という2つの経済活動の間に存在する懸隔（隔たり）を架橋する経済活動である。流通論は、この流通を分析対象として、これを国民経済的視点から論ずるものである。そのうえで、近年特に、大切になってきているのは、地球的規模での流通をみる目である。そこで、この講義の学習目標を要約していえば、流通の機能と機構とを理解することということになる。</p> <p>講義内容の一部を紹介する。2000年は、わが国の小売業のあり方を規定してきた大規模小売店舗法が廃止されることから、わが国の小売業はまさに大変革の年となる。このような状況を踏まえて、小売業の先進国アメリカの実状と対比しながら、新しい法的枠組みである「街づくり3法」のもとでのわが国小売業の再編の方向を探る。</p> <p>また、販売促進の1つであるテレビCMは、現代社会を映す鏡であるともいわれる。そこでは、ポピュラーソングの新曲がタイアップされ拔群な販売促進効果を生んでいると同時に、その新曲そのものの販売促進にもなっているという状況がある。CMのビデオやCD等を駆使しながら、わが国独特のこの状況を明らかにしていく。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期> 0. 世界経済のトレンドと流通 1. 流通論の範囲と対象 2. 流通の分析理論と分析手法 3. 流通研究の歴史 4. 流通をめぐる環境変化と流通へのインパクト 1) インターネット 2) グローバル化 3) 規制緩和 4) 流通関連法の改正 5. 小売流通をめぐる諸問題</p> <p><後期> 6. 卸売流通をめぐる諸問題 7. 市場調査の方法と実際 8. サービス流通（やすらぎ産業）の展開 9. 広告とポピュラーソング 10. 今後の流通の展望 ——地域経済と世界経済——</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験と平常点との総合評価により行う。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>進行にしたがって指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>岸本裕一・田中達彦共著 『タイアップソング・マーケティング』同文館 1998年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
証 券 論		通 期	4 単位	岡 崎 守 男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>証券論で取り扱う証券は、株式会社の発行する株式、社債、それに国の発行する公債などを総称した資本証券である。この講義では、現代の経済のなかで重要な役割を果たしているこれらの資本証券の持つ意味、それを支える証券市場の諸制度、証券の流通に伴う価格形成、株式所有とそれを通しての支配の問題などについて、なるべく具体的な事実を紹介しながら勉強する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>(前期) 証券論の対象としての有価証券 株式会社における株主の諸権利＝株式、株式の種類、株式会社制度の特徴 債券(顔年、種類) 証券業務</p> <p>(後期) 証券市場(発行市場、流通市場)＝証券取引所、証券会社、信用取引、先物取引、投資信託 証券の価格形成(株式、債券)、擬制資本、証券価格指標 株式の所有と支配</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末試験によって行う。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中にその都度紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>財経詳報社編「図説 日本の証券市場」(財経詳報社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
保険論		前期集中	4 単位	武 田 久 義
[講義概要・学習目標] <p>保険は、リスク処理の手段である。したがって、保険は、広範なリスク・マネジメントとの関連において理解される必要がある。しかし、現在の社会では保険がリスク・マネジメントの中心的な位置を占めている。そこで、保険についての学習に重点が置かれる。ところで、日本の保険制度は、現在大きな転換期にある。それは、基本的には、情報社会への変化のなかで把握されるものである。将来における保険や保障制度のあり方についても、考えてみたい。</p>	[講義計画] <p>(前期) リスクとリスク・マネジメントについて。保険の意義と役割。保険の組織と保険制度。保険契約。保険と保障等。</p> <p>(後期) 代表的な保険についての解説。保険の歴史と将来の保障。リスク・保険と社会・文化等。</p>			
[成績評価の方法] <p>期末テスト、レポート等を総合的に判断する。</p>	[参考文献] <p>① 武田久義外、『講案保険総論』、法律文化社 ② 前川寛、『現代保険入門』中央経済社</p>			
[教科書] <p>プリントを配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際経営論		後期集中	4 単位	網 野 俊 賢
[講義概要・学習目標] <ul style="list-style-type: none"> - 企業経営のグローバル化がますます進むなかあって、国際経営についての理解は経営学を学ぶ者にとって必須要件であるとともに、経営学の学習をより興味深いものにする大事な要素でもあります。 - 企業経営のグローバル化は大企業のみならず中小企業をも巻き込み、またあらゆる業種を網羅します。 将来どのような職業に就くとしても国際経営についての基礎知識なしでは仕事が出来ない時代になって来たと言えるでしょう。 - この講義では日本の多国籍企業に焦点を当てて、その成長過程をさぐり更にマーケティング、生産、研究開発といった経営の内容に触れて国際経営の実感に迫ろうとします。 - 講師自身が長年にわたり国際経営の実務に携わっていた経験を生かすために教科書に準拠して講義を進めるだけでなく、小グループ討議でのケース・スタディやビデオ映像による多角的な学習方法を採用して興味ある授業にしたいと考えています。 - 積極的に授業に参画し国際経営を学ぼうとする人達の受講を歓迎します。 <p>(なおこの講義の内容について質問がある場合はインターネットで下記にお問い合わせ下さい。 aminousjpn@aol.com)</p>	[講義計画] <p>この講義で取り上げる主な項目</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 多国籍企業とは (2) 多国籍企業の国際経営戦略 (3) 国際マーケティング (4) 海外生産 (5) 海外研究開発 (6) 国際経営組織と所有政策 (7) 海外子会社の経営 			
[成績評価の方法] <ol style="list-style-type: none"> (1) 出席を重視します。 (2) 期中に1-2回の小テストを行います。 (3) 期末に筆記試験を実施します。 	[参考文献] <ol style="list-style-type: none"> (1) 福元正晴・全在紋編著「環太平洋圏企業経営への提言」 (2) 吉原英樹著「日本企業の国際経営」 (3) 安室憲一著「国際経営」 <p>いずれも本学図書館の蔵書</p>			
[教科書] <p>吉原英樹著「国際経営」 有斐閣刊 ISBN4-641-12036-6 (教科書は必ず購入して下さい)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際マーケティング論 (旧貿易論)		通 期	4 単位	太 田 一 朗
【講義概要・学習目標】 1989年の東西冷戦終結に続くソ連邦、東欧圏の崩壊により世界経済はメガコンペティション（大競争）の時代に突入した。そして現在日本を含むアジア経済の不況は深刻な需給ギャップ（需要<供給）を生み出している。今や企業は業種、規模を問わず常に世界を視野に入れ戦略を立てなければならない。このような時、国際マーケティングは益々重要になってきている。 この国際マーケティング論では、まず国際マーケティングの基本問題、ついで国際マーケティングの戦略、さらには国際マーケティングの実態、そして国際マーケティングの展望などについて勉強する。これらの勉強に当っては実例を出来るだけ引用するつもりである。尚、マーケティングの知識がなくても受講できるよう、はじめに講義を理解する上で必要なマーケティングの基礎を学習する予定である。	【講義計画】 <前期>マーケティングの基礎 4P's 等 国際マーケティングの基本問題 経済発展とマーケティングの進化など 国際マーケティングの戦略 市場細分化、市場進出、複合化戦略など <後期>国際マーケティングの実態 総合商社、電子産業、自動車産業など 国際マーケティングの展望 国際政治、世界市場			
【成績評価の方法】 テストによる。	【参考文献】			
【教科書】 門松正雄/大石芳裕編著 『国際マーケティング体系』（ミネルヴァ書房）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営・商学特講 インターンシップ		集中コース	2 単位	鈴 木 幾 多 郎
【講義概要・学習目標】 学生が在学中に企業等において研修的な就業体験するプログラムであり、大学教育と社会における実地の経験を結びつけることによって、教育の効果を一層あげることが目的としている。	【講義計画】 授業の形態（プログラムの概要） 「事前研修」 研修の開始までに事前研修を行う。内容に応じ当該科目担当教員、企業等から招く講師が、概ね以下の指導を行う。 (1) プログラム全体のガイダンス (2) 研修企業・団体に関する事前学習 (3) 研修要領の説明と報告書・レポートの作成指導 (4) 研修の準備 (5) ビジスマナーの指導 「研修期間」 夏期休暇中機関（60時間以上）。研修中は研修日誌をつける。 「事後研修」 (1) 研修日誌の提出 (2) 研修結果についての報告			
【成績評価の方法】 事前研修・事後研修の際の出席状況、研修報告書の内容、報告会でのプレゼンテーション、研修先からの評価等を総合的に評価する。				
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
経 営・商 学 特 講 (日本の経営と産業)		前 期	2単位	井 上 義 祐 INOUE Yosisuke
[講義概要・学習目標] グローバリゼーションの大きな潮流のなかで、日本企業にはこれまでも増して大きな活躍が期待されている。このような環境のなかで世界の市民育成を建学の精神とする本学において、21世紀の世界に向けて大きく羽ばたこうとしている本学学生諸君と、少数ながら英語圏から日本の経営事情を学びに来学予定の留学生を対象に、経営学部を主とし他学部の教員も加わえた教授陣による英語を用いての日本の経営と産業について論じ討議をする。 このことにより、 ①日本におけるManagementの一端と主要なIndustryの概要・歴史などおよびそれらの特徴についての基本的事項を学ぶ ②英語圏の学生と共に学び国際的な感覚を少しでも体験する ③英語での講義や討論を通じて主要な専門用語(technical term)や日常使用する語彙を増やし英語文献の読解力と会話力を養うことを差し当たりの目標とする。	[講義計画] Eight Professors are scheduled to deliver in English on the following subjects once a week totalling twelve weeks in the first semester. The sequence of the lectures and the subjects can be changed slightly, and the final syllabus will be given in the orientation of the course. * Orientation, Management Concept and Structure * Banking Industry in Japan -- it's legacy and innovation -- * Insurance Business in Japan * Auditing System in Japan * Globalization and Financing of Japanese Companies (1) (2) * Japanese Retailing Industry under Deregulation * Japanese Agriculture after the Rapid Import Liberalization * Supply Change Management of Japanese Type * Product Development in Japan (1) (2) * Japanese Steel Industry (and Review of the course) Those students, who are willing to challenge to the new experience, are welcome. His/her English competence is not so much important as his/her willingness to learn it. However once you join this lecture, keep joining to the end of the lecture and don't drop out of it.			
[成績評価の方法] 毎回出席することを前提とし、簡単なレポートやテスト、参画度合いなどで総合的に評価する。	[参考文献] 講義のなかや前に紹介する。また、必要に応じ資料を配布する。			
[教科書] とくに予定していない				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論A	0 1 0 2	後期 後期	2単位 2単位	植 木 泰 博
[講義概要・学習目標] 1. 講義概要 ソフトウェア概要：基本ソフトウェアの概要、コンピュータ上でのソフトウェア実行の仕組みなど コンピュータ上でのソフトウェアの実際：BASIC言語を用いたプログラミングを中心に処理の考え方、処理の方法グラフィックなどの解説 2. 学習目標 ①プログラミングの記述、命令の解説。 ②グラフィック作成で絵を書く処理を通して、プログラミングの作成方法を理解する。 ③実習で目的(要求)と実現方法、プログラム開発の一連の作業を行う。 注意：プログラム作成、レポート提出などパーソナルコンピュータを利用するので、ワープロ(Word)を利用できることが必要条件である。	[講義計画] <後期> 1. ソフトウェアの概略 ソフトウェア実行の仕組み、利用アプリケーションの説明 2. BASIC言語 文法、書式解説、例題による命令の理解 グラフィック、グラフィック命令 実習 最終レポート(操作説明書作成)			
[成績評価の方法] コンピュータを利用した実習が中心 1. 出席 2. レポート提出(宿題) 3. 最終レポート提出	[参考文献] 「N88-日本語BASICリファレンスマニュアル」(日本電気) N88互換Basicヘルプ			
[教科書] プリント配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論A	03	後 期	2 単位	岡 本 英 嗣
[講義概要・学習目標] プログラム言語としてBASICを使用する。最初はWindowsを使ってワープロ的な使い方に慣れてもらい、次第にプログラムに入っていく。特に教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。受講する学生への希望としては、まず演習（実習）に出席することである。 1. WINDOWSを使ってコンピュータに慣れる。 2. BASICプログラムの基本を理解する。	[講義計画] 1. コンピュータに慣れ親しむ 2. OSとは何か 3. 四則演算 4. if～then～ 5. 試験の合格判定プログラム 6. その他			
[成績評価の方法] 出席状況と提出物で評価する。	[参考文献]			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論A	04 05 06	後 期 後 期 後 期	2 単位 2 単位 2 単位	私 金 ジヤクェ 珍 奎
[講義概要・学習目標] パソコンに関する基礎的知識の復習とVISUAL BASICを用いた初歩的なプログラミングを目指す。 プログラミング論Bの単位取得を前提に講義を進める。	[講義計画] ガイダンス VISUAL BASICの基本 コマンドボタンとプリント文 算術演算 キーボードからのデータの受け取り 判断分岐1回 判断分岐2回 繰り返し処理1回 繰り返し処理2回 テキストボックスの利用 その他			
[成績評価の方法] 出席、レポート、試験の総合評価	[参考文献]			
[教科書] 開講時に指定する。	特に指定しないが、市販の参考書を利用する。			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論A	07 08	後 期 後 期	2単位 2単位	初 瀬 慎 一
【講義概要・学習目標】 PCの基礎を取得し、その次のステップとして学ぶ科目がプログラミング論Aである。コンピュータ(PC)は、人間がすべての操作手順を指示することによりはじめて機能するものである。その操作手順を作成することを「プログラミング」と呼ぶ。プログラミング論Aにおいては、Windowsシステムの標準的なプログラミング言語である「Visual Basic」言語を用いてプログラミングの基礎を習得することを目標とする。	【講義計画】 1. Visual Basicの基礎 2. 簡単なプログラム 3. アルゴリズムの基礎 4. プログラムの作成 5. プログラムの検査			
【成績評価の方法】 出席率、課題の提出率、試験の成績、受講態度などを総合して判定する。	【参考文献】 桃山学院大学計算機センター(編)『ユーザーズガイド』			
【教科書】 開講時に指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論A	09 10 11 12	前 期 後 期 後 期 後 期	2単位 2単位 2単位 2単位	崔 英 靖
【講義概要・学習目標】 1. パソコンの基本操作を習得する。 2. Visual Basic (以下、VBと略す) 言語を使って、 基本的なプログラムが組めるようになる。 3. コンピュータの基本動作原理を理解し、 その適用可能性と限界を知る。	【講義計画】 1. 講義概要と受講上の注意点 2. VB事始め 3. コマンドボタンとPRINT文の詳細 4. 算術演算 5. キーボードからのデータの受け取り 6. 判断分岐 (その1) 7. 判断分岐 (その2) 8. 繰り返し処理 (その1) 9. 繰り返し処理 (その2) 10. テキストボックスへの出力 以上の内容は変更されることもある。			
【成績評価の方法】 試験の成績、出席率、宿題の提出率などによって総合的に評価する。	【参考文献】 未定。 開講時に指定する。			
【教科書】 未定。 開講時に指定する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論A	13 14	後期 後期	2単位 2単位	大 嶋 耕 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>プログラミング言語にはさまざまなものがあり、適材適所で使用されているが、この授業では、Windows でもっとも一般的な言語である Visual Basic を用いて初歩的なプログラミングを学習する。</p> <p>ただし、Visual Basic は、JIS で定められた BASIC 言語とはかなり異なり、Windows のアプリケーションプログラムを作成するために特化した拡張 BASIC 言語である。そこで、この授業では、前半では、JIS BASIC に近い BASIC インタプリタを使って、プログラムの意味、ユーザーインターフェースの考え方、コンピュータにおけるデータの扱いについて学び、後半では Visual Basic を使って基本的なアルゴリズムと Windows アプリケーションの仕組みについて学ぶことにする。</p> <p>いずれにしろ、初めてプログラミングを経験する学生を対象に、単にプログラム言語教育に陥らないよう配慮し、プログラミングを通して、コンピュータへの理解を深めることを目標とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>第1回 ガイダンス、BASIC 言語とは 第2回 BASIC インタプリタによるプログラム作成の実例 第3回 もっとも基本的なコマンド (INPUT, PRINT, 代入) と変数 第4回 プログラムの編集、I F 文 (条件分岐) と GO TO 文 (無条件分岐) 第5回 数値関数、簡単な計算処理の演習 第6回 文字関数、文字処理を含んだ演習 第7回 アルゴリズムとフローチャート、スパゲティプログラムとは 第8回 Visual Basic によるプログラム作成の実例 第9回 ブロック I F 文、計算処理プログラムの演習 第10回 Graphical User Interface、インターフェースの工夫 第11回 Visual Basic のプログラムをコンパイルする、Visual Basic での簡単なアルゴリズム (FOR-NEXT 文、WHILE-WEND 文) 第12回 繰り返し処理を含んだ演習 第13回～ 総合演習</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席 (20%)、レポート・提出物 (50%)、試験 (30%) で総合評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>第1回の講義時に紹介する (コンピュータの世界は変化が激しく、参考書も次々と出版されているので)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>市販の教科書は使用せず、プリントで資料を配付する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論B	01 02	前期 前期	2単位 2単位	植 木 泰 博
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1. 講義概要 コンピュータの概要：コンピュータの仕組み、各部の名称と役割、キーボード操作の解説と練習。 Windows を利用したマルチメディア文章の作成。 コンピュータの利用：アプリケーションソフトウェアの利用 (ワープロ、表計算) と表現方法 (情報加工方法) の習得、電子メールと図書館書籍検索システム利用方法解説。インターネットの利用。</p> <p>2. 学習目標 一般的なコンピュータ用語の理解と操作方法の理解。 目的の情報を文書化し、データの表現方法の理解。 コンピュータを自分の表現ツールとして利用できるマルチメディア文章の作成を可能にする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><前期> 1. コンピュータの概要 コンピュータの仕組み 各部の名称と役割 キーボード操作の解説と練習、OS の仕組み 2. ワープロ (Word) 操作方法解説 文書入力編集、罫線など 3. 表計算 (Excel) データ入力編集、グラフ 4. マルチメディア文章の作成 Windows 間のワープロを利用した表計算のグラフの貼り付け インターネット上のデータの利用 5. 電子メール、図書検索システムの利用方法解説 6. 最終レポート作成</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>コンピュータを利用した実習が中心 1. 出席 2. レポート提出 (宿題) 3. 最終レポート提出</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>プリント配布</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論B	03	前 期	2 単位	岡 本 英 嗣
【講義概要・学習目標】 WINDOWS のWordとExcelを使って一通りのことができるようにする。さらにインターネットを使い情報の収集や電子メールの送受信（学生から先生宅へ）の練習をする。 特に教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。受講する学生への希望は毎回必ず演習（実習）に出席すること。 <学習目標> 1. WINDOWS を使ってコンピュータに慣れる。 2. Word を使って手紙は勿論、卒論も書けるようにする。 3. インターネットを使って世界中をサーフィンする。	【講義計画】 1. コンピュータに慣れ親しむ 2. Word で文書が打てる。 3. Excel で表計算が出来る。 4. 電子メールが送受信できる。			
【成績評価の方法】 出席状況と提出物で評価する。	【参考文献】			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論B	04 05 06	前 期 前 期 前 期	2 単位 2 単位 2 単位	私 金 ジ ン キ ュ 珍 奎
【講義概要・学習目標】 キーボード操作や OS などパソコンに関する基礎知識と、ワープロ（Word）と表計算（Excel）の基本的な操作を習得し、簡単な報告書の作成を目指す。 また、電子メールの使い方、インターネットの利用方法をも身につける。	【講義計画】 パソコンの概要（キーボードの操作など） Word 文章の編集 罫線（表の作成） オブジェクトの利用 文章の印刷 Excel 効率のよい表の作成 数式と関数 グラフ機能 電子メールの利用（AL-Mail） インターネットの利用			
【成績評価の方法】 出席、レポート、試験の総合評価	【参考文献】 桃山学院大学計算機センター 『ユーザーズガイド』			
【教科書】 Microsoft Press 『Microsoft Word 97 セミナーテキスト初級編』 Microsoft Press 『Microsoft Excel 97 セミナーテキスト初級編』				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論B	07 08	前 期 前 期	2単位 2単位	初 瀬 慎 一
【講義概要・学習目標】 情報社会は非常に速いテンポで進化し、我々の生活にもさまざまな形で影響を与えている。近年のコンピュータの高性能化、パーソナル化に伴って、コンピュータを操る能力は現代社会においては基礎的な技能として要求されている。 授業では、コンピュータを「電子文房具」として活用するのに必要な知識の獲得を目的としパソコン実習を通して、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークやマルチメディアについて、また表計算、ワープロソフト、インターネットの利用等を学習する。	【講義計画】 1. パーソナルコンピュータ(パソコン)の概要 2. コンピュータの基本操作、キーボードレッスン 3. インターネット 4. 電子メールとネチケット 5. オフィスツール(ワープロ・表計算)の利用 6. その他の情報活用法			
【成績評価の方法】 出席率、課題の提出率、試験の成績、受講態度などを総合して判定する	【参考文献】 桃山学院大学計算機センター(編)『ユーザーズガイド』			
【教科書】 開講時に指示する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論B	09 10	前 期 前 期	2単位 2単位	崔 英 靖
【講義概要・学習目標】 1. コンピュータについての基礎知識を学ぶ。 2. Windows についての基礎知識を学び、 基本的な操作方法を習得する。 3. 各種アプリケーション・ソフト(電子メール、インターネット、 ワープロ、表計算ソフトなど)の利用方法を習得する。	【講義計画】 1. コンピュータについての基礎知識 2. Windowsについての基礎知識と操作方法 3. 電子メールとインターネット 4. Wordの基本 5. Excelの基本 以上の内容は変更されることもある。			
【成績評価の方法】 試験の成績、出席率、宿題の提出率などによって 総合的に評価する。	【参考文献】 未定。 開講時に指定する。			
【教科書】 『アプリケーションソフト ウィンドウズ 95 ワード/エクセル』 一橋出版				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論B	1 1 1 2	前 期 後 期	2 単位 2 単位	三 木 大 史
[講義概要・学習目標] コンピュータの基本的な活用能力を、様々なコンピュータの操作体験によって獲得することを学習目標とする。特定のアプリケーションソフトウェアの操作能力を身につけるにとどまらず、コンピュータに対する概念的理解を深め、必要に応じて適切なコンピュータの活用ができる能力獲得を目指す。情報源および発信先として、インターネットの利用を念頭に置き、収集したデータの分析・加工および発信の方法を身につける。 電子メールを授業中の様々な場面で可能な限り使用する。このことを通して、コミュニケーションのツールとしてのコンピュータおよびネットワークの特質を体験的に理解し、併せて、情報化社会のマナーを涵養する。 受講にあたって、予備知識やコンピュータ操作の経験は不要であるが、受け身の受講態度ではなく、積極的・能動的な学習態度が望まれる。	[講義計画] (1) コンピュータシステムの概要, Windows の基本操作, タイピングの基本 (2) エディター, 文字の入力・編集 (カットアンドペースト・コピーアンドペースト, 検索・置換) (3) ヘルプファイル・WWW ブラウザ活用, ファイルとフォルダの管理, ファイルとアプリケーションソフトウェアとの関連 (4) 電子メールの送受信, メールヘッダー, テンプレートの活用, ファイル添付と展開 (5) ワードプロのレイアウト機能 (文字・段落の書式, スタイル, 段組, ヘッダー・フッター) (6) 表の作成と罫線, ビジネス文書作成方法, 図形描画 (7) 表計算ソフトウェアの基本 (文字・数値・式・関数の入力・コピー・書式設定), グラフ作成 (8) 表計算ソフトウェアによるデータベース機能, 簡単なシミュレーション, アプリケーションソフトウェア間のデータの相互利用, オブジェクトの貼り付けとリンク (9) WWW による資料の検索, データの取り込みと再利用, ワードプロセッサのアウトライン機能 (文書の構造化), 論文スタイル文書の作成方法 (10) プレゼンテーションソフトウェアの利用, Web ページの作成			
[成績評価の方法] 試験に代えて、レポートの提出を求める。 最後のレポートに、平常の課題および出席率を加味して評価する。	[参考文献] 桃山学院大学計算機センター『ユーザーズガイド』 その他、必要に応じて最新の文献を授業中に紹介する。			
[教科書] 佐々木宏, 森裕一, 三木大史, 大西慶一『インターネットと情報リテラシー』(同文館)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論B	1 3 1 4	前期 前期	2 単位 2 単位	大 嶋 耕 一
[講義概要・学習目標] かつてマニアのおもちゃでしかなかったパソコンが、いまでは学習・研究、仕事、趣味といったいろいろな局面での道具になった。この授業では、コンピュータを学習・研究の道具として使いこなすための基本的なスキルを学ぶことを目的とする。 内容としては、情報の収集 (インターネットのWWW、E-mail)、加工・分析 (表計算ソフト)、情報の表現・発信 (ワープロソフト、プレゼンテーションソフト) という、情報処理の基本要素全般を取りあげる。 これらの内容は、いずれもソフトウェアに習熟し、手足のように使いこなせるようになることが大切である。しかしながら、半期の授業でこれらすべてを取りあげるので、授業時間内でソフトウェアの習熟をすることはできない。したがって、課外での十分な学習 (練習) を前提とする。	[講義計画] 第1回 ガイダンス、Windows の基本的な操作 (マウスを中心に) 第2回 フロッピーディスクの扱い、テキストエディタを使ったキーボード操作、ファイルとフォルダの操作 第3回 テキストエディタを使った日本語入力・編集、クリップボードを利用した編集処理、その他基本的な機能 第4回 ワードプロ入門 (1) : 文書の書式設定と基本的な文字属性 第5回 Network 入門 (1) : LAN とインターネット、E-mail の使い方 第6回 ワードプロ入門 (2) : 作表・レイアウト、文書作成の演習 第7回 Network 入門 (2) : WWW の仕組み、WWW による情報の検索 第8回 表計算入門 (1) : 文字・数値・式の入力、セルのコピー 第9回 表計算入門 (2) : 表の体裁を整える 第10回 グラフの作成、アプリケーションソフト間の連携 第11回 プレゼンテーションソフトの利用 第12回～ 総合演習 : Visual 文書の作成 (文書の構造化と画像の活用)			
[成績評価の方法] 出席 (20%)、レポート・提出物 (50%)、試験 (30%) で総合評価する。	[参考文献] 桃山学院大学計算機センター『ユーザーズガイド』 その他講義時に適宜紹介する (コンピュータの世界は変化が激しく、参考書も次々と出版されているので)			
[教科書] 市販の教科書は使用せず、プリントで資料を配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論C	01	通 期	4 単位	芦 田 昌 也
	02	通 期	4 単位	
[講義概要・学習目標] Fortran と C の2種類のプログラミング言語の講義と演習を通して、 <ul style="list-style-type: none"> 問題解決のための手順を考案する能力 プログラミング言語の文法に関する知識 を身につける。 <p>講義では、よく知られた問題解決の手順(アルゴリズム)と、コンピュータプログラムで用いられる制御構造を学習する。演習では、実際にプログラムを作成しながら、アルゴリズムやプログラミング言語の文法に関する理解を深める。</p>	[講義計画] <ul style="list-style-type: none"> コンピュータプログラムの読解と Fortran によるプログラミング <ol style="list-style-type: none"> よく知られた問題解決の手順(アルゴリズム) コンピュータプログラムで利用される代表的な制御構造 C 言語によるプログラミング <ol style="list-style-type: none"> 標準入出力 変数の利用と四則演算 条件文による処理の分岐 一次元配列 繰り返し処理 関数の定義と利用 ファイル入出力 			
[成績評価の方法] 提出されたレポートにより評価する。レポートの課題は演習中に提示する。	[参考文献] <ul style="list-style-type: none"> 結城 浩「C言語プログラミングレッスン入門編」ソフトバンク 刀根 薫「FORTRAN77 基本+応用」培風館 			
[教科書] 指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者		
プログラミング論C	03	通 期	4 単位	小 池 俊 隆		
[講義概要・学習目標] プログラミング言語として、事務処理分野でもっとも広く用いられているコンパイラ言語であるCOBOLについて学ぶ。COBOL言語は、FORTRANやBASICのような他の言語とは考え方の違ったプログラミング言語である。レコードやファイルといった概念が、他の言語にくらべて、より明確に規定されている。 <p>この講義では、COBOLの文法の基本部分を解説する。いくつかのプログラム例を通じて、COBOLプログラムの様式、作成方法、考え方を学び、プログラムを解読できるようになること、プログラムを自分で作成できるようになることを目標とする。同時に、プログラム作成を通じて情報処理の考え方、アルゴリズム、論理的な思考法についても体得してもらいたい。</p> <p>プログラミングの学習は、実際に操作することによって理解がより深まるので、講義による説明と実習とを交えながら進めていく。内容の説明、コンピュータでの処理方法の説明などは順を追った段階的積み重ねであるから、毎時間出席してよく聞いていないと内容が理解できず、次に進めなくなるから注意すること。</p>	[講義計画] <table border="0"> <tr> <td> [前期] COBOLプログラミングの文法 <ul style="list-style-type: none"> 四則演算、入出力の方法 画面表示の方法 キーボードからの入力 入力領域の考え方 出力領域の考え方 作業領域の考え方 COBOLプログラムの実行 <ul style="list-style-type: none"> 簡単な入力のプログラム 簡単な出力のプログラム </td> <td> [後期] COBOLプログラミングの文法 <ul style="list-style-type: none"> データの転記 データの編集 ファイルによる入力 ファイルへの出力 COBOLプログラムの実行 <ul style="list-style-type: none"> 単純な集計プログラム 高度な集計プログラム ファイル処理を行うプログラム </td> </tr> </table>				[前期] COBOLプログラミングの文法 <ul style="list-style-type: none"> 四則演算、入出力の方法 画面表示の方法 キーボードからの入力 入力領域の考え方 出力領域の考え方 作業領域の考え方 COBOLプログラムの実行 <ul style="list-style-type: none"> 簡単な入力のプログラム 簡単な出力のプログラム 	[後期] COBOLプログラミングの文法 <ul style="list-style-type: none"> データの転記 データの編集 ファイルによる入力 ファイルへの出力 COBOLプログラムの実行 <ul style="list-style-type: none"> 単純な集計プログラム 高度な集計プログラム ファイル処理を行うプログラム
[前期] COBOLプログラミングの文法 <ul style="list-style-type: none"> 四則演算、入出力の方法 画面表示の方法 キーボードからの入力 入力領域の考え方 出力領域の考え方 作業領域の考え方 COBOLプログラムの実行 <ul style="list-style-type: none"> 簡単な入力のプログラム 簡単な出力のプログラム 	[後期] COBOLプログラミングの文法 <ul style="list-style-type: none"> データの転記 データの編集 ファイルによる入力 ファイルへの出力 COBOLプログラムの実行 <ul style="list-style-type: none"> 単純な集計プログラム 高度な集計プログラム ファイル処理を行うプログラム 					
[成績評価の方法] 実習を交え、それを重視するので、出席を重要視する。実施数の2/3以上の出席を、単位認定の必要条件とする(満たさない場合は単位認定できない)。出席状況と、与えられた課題の提出状況、内容により成績を評価する。	[参考文献] 必要があれば指示する。					
[教科書] 海老沢信一・堀 恵子(共著)『パソコンで学ぶCOBOL構造化プログラミング』(工学図書)						

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
プログラミング論D		通 期	4 単位	三 木 大 史
【講義概要・学習目標】 Windows 上でのアプリケーションプログラムを実際に作成する事によって、Windows プログラミングの特徴である、イベント駆動型（マウスを動かして、クリックしたり、ドラッグしたり、キーボードから入力があったりするたびに処理が行われるプログラムの型）のビジュアルプログラミング（ユーザーとコンピュータとのやりとりのために、画面に様々なボックスや画像のレイアウトを決め、それらを使った処理をプログラムすること）を体得するとともに、オブジェクト指向の考え方を理解することを目的とする。併せて、プログラミングの基本とユーザーインターフェース作成の実際を学ぶことによって、コンピュータに対する本質的な理解を深める。 プログラミングの統合開発環境として Delphi を使用する。これは、もともとは教育用に開発された Pascal というプログラミング言語を採用してあってプログラミングの作法を学ぶのには最適であり、また、Windows プログラミングに対する数々の優れた特徴を持つ。受講にあたって、前提とするプログラミングに関する知識は特に必要ないが、「プログラミング論B」を受講していることが望ましい。		【講義計画】 (1) Delphi の統合開発環境の概要、文字を表示するアプリケーションソフトウェアの作成 (2) 数値と文字の加算をするアプリケーションソフトウェアの作成（変数の型） (3) チェックボックスとラジオボタン（if 文） (4) リストボックスとコンボボックス（for 文、while 文） (5) 簡単な集計表の作成（配列） (6) エラーメッセージとエラーへの対処、時刻・日付の表示 (7) ダイアログボックスとメッセージボックス (8) オープンダイアログとセーブダイアログ (9) メニュー、スピードボタンの作成 (10) 簡単なエディター（テキストファイルを開き、または新規作成して編集でき、そのファイルに名前を付けて保存、または上書き保存できる）の作成 (11) 応用課題作成		
【成績評価の方法】 試験に代えて、レポートの提出を求める。 最後のレポートに、平常の課題および出席率を加味して評価する。		【参考文献】 村上寛（著）『やさしい Delphi』（日刊工業新聞社） ダンテマン他（著）『Delphi プログラミング大全』（翔泳社） オシア他（著）『Delphi プログラミング入門』（プレジデンスホール） その他、必要に応じて最新の文献を授業中に紹介する。		
【教科書】 藤本宏（著）『Delphi でつくる Windows プログラム』（サイエンス社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
システム設計		通 期	4 単位	牧 野 丹 奈 子
【講義概要・学習目標】 企業を情報システムとしてみたとき、経営組織における情報入力、情報伝達、情報蓄積、情報分析、情報出力のありかたを考えデザインすることが、広義のシステム設計である。 情報技術だけに着目したシステム設計は成功しない。コンピュータシステムと人間との関係や、経営戦略とコンピュータシステムとの関係などを考慮しなければ、企業経営にとって役に立つ情報システムを設計することはできないからである。つまり、“目的”である「経営戦略」、 “主体”である「組織」、 “手段”である「情報技術」の三者の関係を考えることが重要といえよう。 この講義は3部構成となっている。 第1部は、「情報とは何か」、「システムとは何か」から勉強をはじめ。続いて、システムモデルや一般システムの基本法則などを勉強していく。いわば“システム論入門”である。 第2部は、企業における情報化の実態を分析することによって、情報技術と経営戦略・経営組織との関係をみていく。 第3部は、コンピュータシステムの設計について勉強する。ここで学ぶコンピュータシステムのモデリング手法は、仕事や日常生活においても多くの場面で役立つことであろう。（なお、この講義ではコンピュータを使用しない。）		【講義計画】 第I部（システム論の基礎知識） 1. システムとモデル 2. 情報と記号 3. システムの基本法則 第2部（情報技術と経営戦略・組織） 1. 経営情報システムの発展過程 2. 経営情報システムの現状 3. 情報技術と経営戦略・組織 第3部（コンピュータシステムの開発過程・モデリング手法） 1. システムライフサイクル 2. 各モデリング手法		
【成績評価の方法】 試験とレポートなどの総合評価によっておこなう。		【参考文献】 その都度、参考文献を紹介する。		
【教科書】 プリントを配布する				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
データベース論 (旧経営情報学特講一データベース論)	01 02	通 期 通 期	4単位 4単位	佐々木 宏
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講座では、リレーショナル・データベース（RDB）の基礎とデータ分析手法について学習する。ソフトウェアはAccessを用いる。最終目標は、RDBを理解し、操作でき、画面・帳表の設計と簡単な応用プログラム（マクロ・VBA）の作成ができるようになることである。実習が中心となるが、次の講義を並行して進め、理論面の補強を行う。</p> <p>①RDBの概念としくみ ②DOA（データ・オリエンテッド・アプローチ）によるシステム開発手法 ③企業の経営情報システムとデータベース</p> <p>受講に際しては、以下を注意のこと。</p> <p>①旧カリキュラムのプログラミング論D（佐々木担当）とほぼ同一内容なので、それをすでに受講済みの者は受講できない。 ②パソコン実習室を常時利用するため、クラス人数が限定されている。プログラミング論と同様に、事前申し込みが必要である。申し込みが許可されないと受講できない。 ③プログラミング論Bを履修済みであることが望ましい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>【前期】</p> <p>①RDBの概要 ②RDBの操作とSQL (Structured Query Language) ③RDBの設計</p> <p>【後期】</p> <p>④アプリケーションの作成 ⑤データ分析手法I（データ・マイニングとドリルダウン）</p> <p>毎年、受講者のスキルによって進度が異なる。本年度も受講者の理解度を確かめながら、時間的・スキルの余裕があれば、以下を行うことにしたい。</p> <p>⑥CASEツール実習 ⑦データ分析手法II（統計的データ処理との連携） ⑧VBAを用いたAccessデータベース・プログラミング ⑨Accessデータベース・エンジンの構造と外部プログラムからの操作（ビジュアル・ベーシック・プログラミングの応用）</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期・後期のレポート2回で評価する。レポートを2回とも提出しないと例外なく「×」となる。また、実習系であるため、出席が規定回数に満たないと「×」となる。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>○前期 小川晃夫訳「ACCESS 97 オフィシャルコースウェア」アスキー出版 ○後期 佐々木宏他「インターネットと情報リテラシー」同文館</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営工学		通 期	4単位	明石吉三
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経営工学とは経営問題に対する科学的、数学的アプローチをいう。この分野は英国、米国を中心に生まれ、IE (Industrial Engineering)、オペレーションズリサーチ、経営科学として発展してきた。</p> <p>本分野は方法論、手法、分野別理論と広範囲である。本講座では文科系学生諸君を前提に、経営工学アプローチの意義、手法、モデル化法を講義する。なお、高度な数学的知識は必要としない。具体的講義内容は以下の通りである。</p> <p>(1) 経営工学とは (2) 数理計画法 a. 線形計画法 b. 非線形計画法 c. PERT系手法 (3) 在庫管理論 (4) 予測手法 (5) 品質管理 (6) 意思決定論</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期 (1) 及び (2) 後期 (3), (4), (5), (6)</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート及び試験による総合評価。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>別途指示する。</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
オペレーションズ・リサーチ		後期集中	4単位	太 田 雅 晴
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>辞典によれば、オペレーションズ・リサーチとは、『システム運用上の問題に、数学的・科学的方法を適用し、最適の選択を発見する技法。経営、軍事での意思決定や、作戦計画などに利用』とあり、ORと略して呼称される。軍というぶつそう言葉がこの定義の中にはあるが、要はいろいろな仕事をする上で、費用においてもスピードにおいても最適なやり方を、科学的に明らかにしようとするのがこの科目を勉強する意味である。近年では、発見された最適な方法をコンピュータプログラムにして利用することで我々の生活を豊かにしてくれている。例えば、車に搭載されたナビゲーションシステムで最短のルートドライバーに示してくれたり、最も利益が上がるようにコンピュータが自動的に株の売買をしてくれたり、コンビニエンスストアでお客さんが満足がいくようにまた店舗の運営費用が安くなるように商品の発注を自動的に行ってくれたりするのはその例である。本講では、事例を用いながらORの基礎的理論を勉強する。特に、情報処理関連試験を受けようとする人達にとっては重要な科目であるとともに、将来、プランニングに関わろうとする人達にとっても学習することで得た知見は役に立つであろう事を保証する。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>左記学習内容の講義を行うが、具体的には下記の課題について事例を踏まえながら講義を進める予定である。</p> <p>1. <u>最適な量を計画する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・最適な生産量を計画する ・最も売上が上がるようにマーケティング予算を媒体に割り振る ・品切れがおこらずかつ店舗運営費用が安いように商品の在庫を計画する <p>2. <u>最適な組み合わせを発見する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・最も速くいくルートの発見 ・最も適切な人員の配置計画の発見 ・最も利益の上がる生産・販売すべき製品種の発見 <p>3. <u>組織やグループのコミュニケーションを分析する。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフ理論の基礎 ・組織のまとまり、閥、リストラ ・消費者の行動パターン 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義中に行う課題と期末試験で総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>必要に応じて講義中に指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>無し</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経営分析		通 期	4 単位	堀 友 章
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>損益計算書・貸借対照表などの財務諸表を中心とする会計情報の見方や分析の仕方、分析結果の解釈について学習します。詳しくは、企業の会計情報を分析して、収益性、流動性、安定性、生産性、分配性、成長性などの良否を観察批判し、企業の内外の利害関係者による意思決定に有益な判断資料を与えるための技法を学びます。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>(前期) ① 経営分析の意義と方法</p> <p>② 財務諸表（貸借対照表、損益計算書、製造原価報告書等）の構造</p> <p>③ 収益性分析（資本利益率、売上高利益率、資本回転率等）</p> <p>④ 流動性分析（流動比率、当座比率、固定比率、負債比率等）</p> <p>⑤ 安定性分析（資産・資本構成比率、財務レバレッジ等）</p> <p>(後期) ⑥ 付加価値と生産性分析</p> <p>⑦ 利益増減分析</p> <p>⑧ 損益分岐点分析</p> <p>⑨ 資金運用表によるファンド・フロー分析</p> <p>⑩ キャッシュ・フロー計算書の作成と分析</p> <p>⑪ 連結財務諸表の作成と分析</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>経営分析は技術的側面が強いため、各章ごとに計算演習のリポート提出を求めます。学年末テストとリポートの成績によって評価します。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>渋谷武夫（著）『経営分析の考え方・すすめ方』（中央経済社）</p> <p>桜井久勝（著）『財務諸表分析』（中央経済社）</p> <p>倉田三郎他（共著）『入門経営分析』（同文館）</p> <p>森田松太郎（著）『経営分析入門』（日本経済新聞社）</p>		
<p>[教科書]</p> <p>毎週、「講義概要と分析事例」を記載したプリントを配布します。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
管理会計論		通 期	4 単位	清水 信匡
<p>[講義概要]</p> <p>企業は様々な経営管理の手段を有しているが、その中核に計画とコントロールシステムがある。計画とコントロールのかなり部分は、管理会計が担当することが多い。したがって、本講義では、まず経営管理活動における計画とコントロールの意義を説明する。次に、計画とコントロールがどのように管理会計技法によって遂行されているのかを説明する。</p> <p>[学習目標]</p> <p>①計画とコントロールの理解 ②管理会計の主要な技法の理解</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期</p> <p>1 経営管理における管理会計 2 計画とコントロール 3 短期利益計画 4 予算管理 5 標準原価による原価統制</p> <p>後期</p> <p>1 事業部制会計 2 設備投資決定、 3 原価企画 4 活動基準原価による原価管理</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>試験の成績で基本的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>加登豊『管理会計入門』（日経文庫C4 1）日本経済新聞社1999年 金児昭『やさしい月次決算』（日経文庫C1 8）日本経済新聞社1993年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
情報会計論		通 期	4 単位	坂上 学
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義では、基本的に、会計行為を情報行為とみる観点から、会計情報の有用性について考察する。ここでは、経済システムのサブシステムである金融システムと会計システムが相互に関連し合う領域における会計問題を重点的に講義する。 簿記・会計の基礎知識を有するものに対して、より深い内容を講義する。その目的は、会計的な見方、考え方を十分に身につけることに置かれる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1. 金融環境とわが国会計制度 2. 金融取引の勘定による表現 3. 債権者保護と資産評価 4. 投資者保護とディスクロージャー 5. 相場変動下の貨幣評価 6. 換算と再評価の計算による理解 7. 国際経営と為替変動の会計問題 8. 金融主導経済下における企業会計</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>・レポート 20% ・期末テスト 80%</p>	<p>[参考文献]</p> <p>特になし</p>			
<p>[教科書]</p> <p>柴（著）「テキスト金融情報会計」</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
経営情報学特講 マルチメディア経営		9月集中	2単位	牧 野 丹奈子
【講義概要・学習目標】 近年、電子技術や通信技術の進展は目覚ましく、コンピュータと通信が融合したインターネットに代表されるマルチメディア社会が急速に実現しつつある。 この講義では、マルチメディアや通信ネットワークなどについて、西日本電信電話株式会社（NTT 西日本）の部長クラス以上の方々という恵まれた講師陣により、文系学生を対象にわかりやすく論じていただく。そのなかには、最新の事例がふんだんに織り込まれており、また、マルチメディアを実感するため最新の施設見学も含まれている。	【講義計画】 若干の変更があるが、概要次のような内容が含まれる予定である。 1. オリエンテーション 2. 通信ネットワークの基礎（制度、サービスなど） 3. マルチメディアの技術と経営 4. マルチメディアの具体例 5. 最新の施設見学			
【成績評価の方法】 「10回以上出席し施設見学をすること」を前提とし、テスト・レポートなどで総合的に評価する。	【参考文献】 必要に応じ講義のなかで指示する。			
【教科書】 講義に先立って配布する。				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
経営情報学特講（情報化社会と情報技術）		9月集中	2単位	明 石 吉 三
【講義概要・学習目標】 情報技術の進歩は著しい。その典型が、パソコンの爆発的普及とインターネットであろう。このような情報技術を前提にした情報化社会では、従来にはなかった新たな可能性と問題点を抱えているとも言える。本講座では、情報化社会を支える情報技術の現状と今後の展開方向を、それぞれの専門分野で活躍する第一線の研究者、事業推進者の方々に講義していただく。	【講義計画】 1. オリエンテーション 2. 情報産業の動向 3. 情報システム化の動向 4. ソフトウェア技術の動向 ・分散ソフトウェア技術 ・データベース技術 ・知識処理技術 5. 情報通信技術の動向 ・インターネット技術 ・モバイルコンピューティング技術 ・衛星通信技術 等 6. 情報機器 ハンディキャップ向け情報機器の動向			
【成績評価の方法】 出席を重視（時間厳守）し、レポートの総合評価	【参考文献】			
【教科書】				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
簿記Ⅱ		通 期	4 単位	中 田 信 正
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>(講義概要) 簿記Ⅱでは、簿記Ⅰの履修を終えた学生に対し、中級程度の工業簿記と商業簿記の講義を行う。工業簿記においては製造業の簿記を学習し、材料費、労務費、経費、製造間接費の配賦、部門別計算、個別原価計算、総合原価計算等を取り扱う。商業簿記においては、勘定科目と仕訳、会社会計、決算、支店会計等を学ぶ。簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要であるため、計算練習を重視する。</p> <p>(学習目標) ① 商工会議所簿記検定試験（6月、11月）2級に受験できるよう、中級程度の工業簿記・商業簿記の計算能力を身につける。 ② 財務諸表論、原価計算の学習のための、基礎知識を学習する。 ③ 公認会計士・税理士等々の資格試験受験の出发点として必要な簿記能力を習得する。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>(前期) 工業簿記 ① 工業簿記の構造 ② 材料費・労務費・経費 ③ 製造間接費・部門費 ④ 個別原価計算 ⑤ 標準原価計算 ⑥ 直接原価計算 ⑦ 工場会計の独立</p> <p>(後期) 商業簿記 ⑧ 現金預金 ⑨ 有価証券 ⑩ 手形取引 ⑪ 特殊商品売買取引 ⑫ 決算・財務諸表の作成 ⑬ 株式会社会計 ⑭ 支店会計 ⑮ 帳簿組織・伝票式会計</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期試験と学年末試験の成績により、総合評価を行う。なお、本年度中に日本商工会議所簿記検定2級に合格した場合、合格証書のコピーを提出すれば、成績評価を1ランク上げることとする。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>中田信正 他(共著)『現代簿記論』(中央経済社) 村田簿記学校(編)『日商簿記検定 2級実践模擬試験問題集』(中央経済社) 宇南山英夫 他(編)『日商簿記検定 2級問題と解答・解説』(中央経済社)</p>		
<p>[教科書]</p> <p>新井清光・渡部裕亘(編著)『検定簿記講義 2級商業簿記』(中央経済社) 岡本 清・廣本敏朗(編著)『検定簿記講義 2級工業簿記』(中央経済社) 新井清光・渡部裕亘(編著)『検定簿記ワークブック 2級商業簿記』(中央経済社) 岡本 清・廣本敏朗(編著)『検定簿記ワークブック 2級工業簿記』(中央経済社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
原価計算論		通 期	4 単位	小 林 哲 夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>多品種小ロット生産、JITないしリーンな生産方式、FA化、グローバル化などに対応する現代経営を取り巻く原価計算の課題と動向を背景としながら、原価計算及びコスト・マネジメントについて講義を行います。</p> <p>製品原価計算の基礎的な概念や手続についても説明を行うが、原価企画、ライフサイクル・コスト、品質コストのマネジメントなど、トピカルな問題についてもできるだけ時間を割いて講義を進めていきたいと思っています。</p> <p>現代経営における原価計算及びコスト・マネジメントについての知識を身につけることが学習の目標です。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>(前期) 主として、製品原価計算に関する基礎知識及び新しい原価計算のあり方に焦点を当てて講義を行います。</p> <p>(後期) 原価企画、ライフサイクル・コスト、品質コストのマネジメントなどを中心として現代経営が取り組んでいるコスト・マネジメントについて講義を行い、合わせて戦略的コスト・マネジメントの考え方に洞察を加えます。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>期末テスト</p>		<p>[参考文献]</p> <p>日本会計研究学会『原価企画研究の課題』(森山書店)</p>		
<p>[教科書]</p> <p>小林哲夫『原価計算：理論と計算例』(中央経済社) 小林哲夫『現代原価計算論：戦略的コスト・マネジメントへのアプローチ』(中央経済社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
税務会計		通 期	4 単位	中 田 信 正
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>(講義概要) 税務会計は、会計のうち、税法に関連する分野を扱うものである。主な内容は、法人税を中心にして、法人の課税所得金額を計算する仕組みや方法を学ぶことにある。講義においては、まず、納税主体である法人の意味や種類について述べ、所得計算の基本的な考え方を財務会計と関連させて説明する。ついで、益金および損金の各項目に関する税務上の処理にふれ、また、税額の計算方法について学ぶ。さらに、申告、更生・決定、不服申立てについても論じたい。理解を深めるため、できるかぎり計算練習を行いたい。</p> <p>(学習目標) ①法人税法における課税所得金額と税額の算定方法の概要を、体系的に理解する。 ②税法上の所得金額と財務会計上の利益との関係および両者の相違を把握する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>① 法人税の納税主体 ② 各事業年度の所得金額の計算体系 ③ 売上に関する税務 ④ 棚卸資産評価と売上原価 ⑤ 固定資産と減価償却 ⑥ 特別償却 ⑦ 繰延資産の償却 ⑧ 役員報酬・賞与等</p> <p>⑨ 寄付金・交際費 ⑩ 租税公課 ⑪ 貸倒損失 ⑫ 受取配当金 ⑬ 引当金 ⑭ 圧縮記帳 ⑮ 欠損金の繰越・繰戻 ⑯ 税額の計算 ⑰ 申告・納付・更生・決定等 ⑱ 学年末試験のための答案練習</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期試験と学年末試験の成績によって評価する。試験は計算問題と論述問題を出題する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>井上久彌(著)『法人税の計算と理論』(税務研究会出版局) 国税庁法人税課長(監修)『私たちの法人税』(大蔵財務協会) 大蔵省主税局税制第一課監修『法人税法規集』(中央経済社) 大蔵省主税局税制第一課監修『法人税取扱通達集』(中央経済社)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>中田信正(著)『税務会計要論(九訂版)』(同文館)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
監査論		通 期	4 単位	ハク テン 朴 大 栄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>バブル経済の崩壊とともに、企業が公表する財務諸表の粉飾問題、銀行の不正融資など企業経営者による不正行為が社会的な関心事となっている。同時に、連続する大手企業の倒産、それにもなる企業公表情報への不信が経済社会に混乱を引き起こしている。</p> <p>このような状況のもと、監査に対する社会的関心も高まってきている。監査論は、企業の独断専行を抑え、一般社会との協調を計らせるための会計学、経営学等の応用理論に属する。今年度の講義は、このような社会背景のもと、監査の基礎知識のみならず、現行の監査制度の問題点などにも触れていくことにする。</p> <p>本講義においては、企業と外部利害関係者とくに投資家との間に介在する証券取引法監査ないし会計監査を中心に、監査に関する基礎知識の理解を目的とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>講義の順序を示す。</p> <p>第1章 監査とは 第2章 通説監査論の考え方 第3章 情報監査論の考え方 第4章 その他の監査論 第5章 監査の必要性 第6章 監査の限界と補強方 第7章 監査の歴史的発展 第8章 監査目的と不正 第9章 監査基準の意義</p> <p>第10章 監査人の資格と条件 第11章 監査人の正当注意 第12章 監査証拠 第13章 監査計画 第14章 内部統制と試査 第15章 監査報告書と適正性 第16章 監査意見 第17章 特記事項</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験の成績と出席状況を勘案して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>鳥羽至英著『監査基準の基礎 第2版』白桃書房 高田正淳著『最新監査論』中央経済社 その他、講義中に適宜指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>加藤恭彦・友杉芳正・津田秀雄編著 『監査論講義』中央経済社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
国際会計論		通 期	4 単位	柴 理 梨 亜
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>国際化、グローバル化がますます進む現在の環境では当然、会計もその影響を受けている。日本でも国際会計基準が重要視されるようになり、日本の会計基準との調和化問題も大きな課題となっている。</p> <p>本講義では国際会計基準、アメリカ式財務諸表や会計原則、連結財務諸表や監査等について学び、多くの英語の会計専門用語を身につけ、英文財務諸表の内容を理解できるようになるのが目的である。</p>		[講義計画]		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期と後期のテストの結果と平常点を総合的に評価する。</p>		[参考文献]		
<p>[教科書]</p> <p>ミューラー、ガーノン、ミック（著）野村健太郎、平松一夫監訳 「国際会計入門」第4版（中央経済社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
税法 (旧会計学特講一税法)		通 期	4 単位	中 田 信 正
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>(講義概要) 税法のうち、身近な問題を対象に、個人の所得課税および資産課税を講義内容とする。まず、日本の税制を全般的に述べた後、所得税を取り上げる。利子所得、配当所得、給与所得等の課税所得を種類別に説明し、個人事業者に対する事業所得の計算方法および資産譲渡に課せられる譲渡所得についても論じた。ついで、相続財産に対して課せられる相続税を取り上げ、その計算構造および財産評価基準を検討し、関連して贈与税にもふれることにしたい。理解を深めるため、計算練習を重視する。</p> <p>(学習目標) 所得税および相続税の基本的仕組みを、体系的に理解する。</p>		[講義計画]		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期試験と学年末試験の成績によって評価する。試験は計算問題と論述問題を出題する。</p>		[参考文献]		
<p>[教科書]</p> <p>国税庁所得税課長監修『平成11年度 私たちの所得税』（大蔵財務協会） 後半に使用する相続税については別途指示する。</p>		国税庁広報課長監修 『やさしい譲渡所得』（大蔵財務協会） 国税庁資産税課長監修 『やさしい相続税』（大蔵財務協会） 国税庁広報課長監修 『やさしい贈与税』（大蔵財務協会）		

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商業英語		通 期	4 単位	桜 井 勝 友
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>講義概要・学習目標</p> <p>即戦力を期待する実社会のニーズに対応するため、実務に役立つ商業英語 (Business English) の基礎知識を習得する。貿易業務の流れに添って基礎的専門用語や英語表現をマスターし、状況に応じて自分の意向や意志を英文で伝えられるようにする。</p> <p>なお貿易の「実務知識」と「商業英語」(その英語による表現) は謂わば車の両輪の関係である。従って講義「貿易実務」の履修又は積極的自習をお願いする。</p>	<p>【講義計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 貿易業務の概論 (輸出を中心に全体像) 2. 取り引きの申し込み (引き合い・見積もり) 3. オフファー、カウンター・オフファー (条件折衝) 4. 契約締結関係 5. 金の移動 (信用状及び送金による貨物代金の決済を中心) 6. 物の移動 (船積み及び保険関連) 7. クレームとその解決関連 8. 個人輸入関連 			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>前・後期末試験成績、出欠状況、受講態度 (気迫と積極性)。 第56回「商業英語検定試験」Cクラス合格者は7/5評価する。 (11月23日、日本商工会議所主催)</p>	<p>【参考文献】</p> <p>[新] 実用英語ハンドブック 加藤 正 主幹 (大修館書店) 「マンガ貿易入門」宮下 忠雄著 (サンマーク出版)</p>			
<p>【教科書】</p> <p>[三訂版] 「商業英検C級からB級への合格の手引き」 芝池 美明・上田久雄著 (晃洋書房)</p>				

